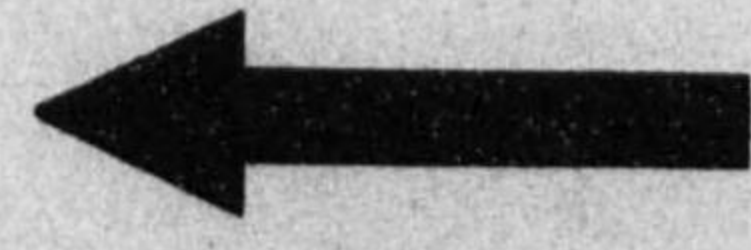


始



衆議院文庫

和漢書門

二七七七

法政

類

五

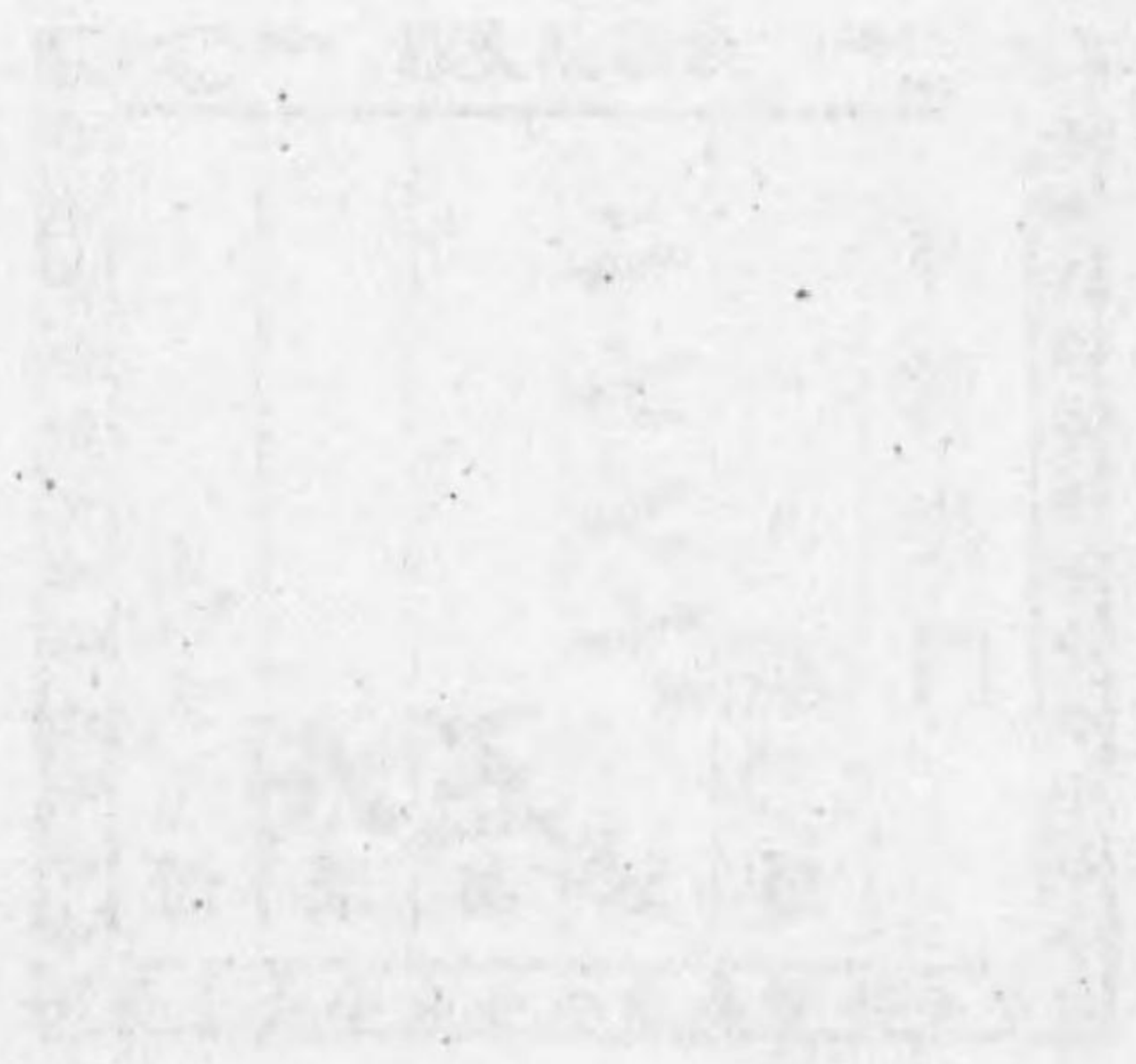
函

架

卷

冊

a34/
26x

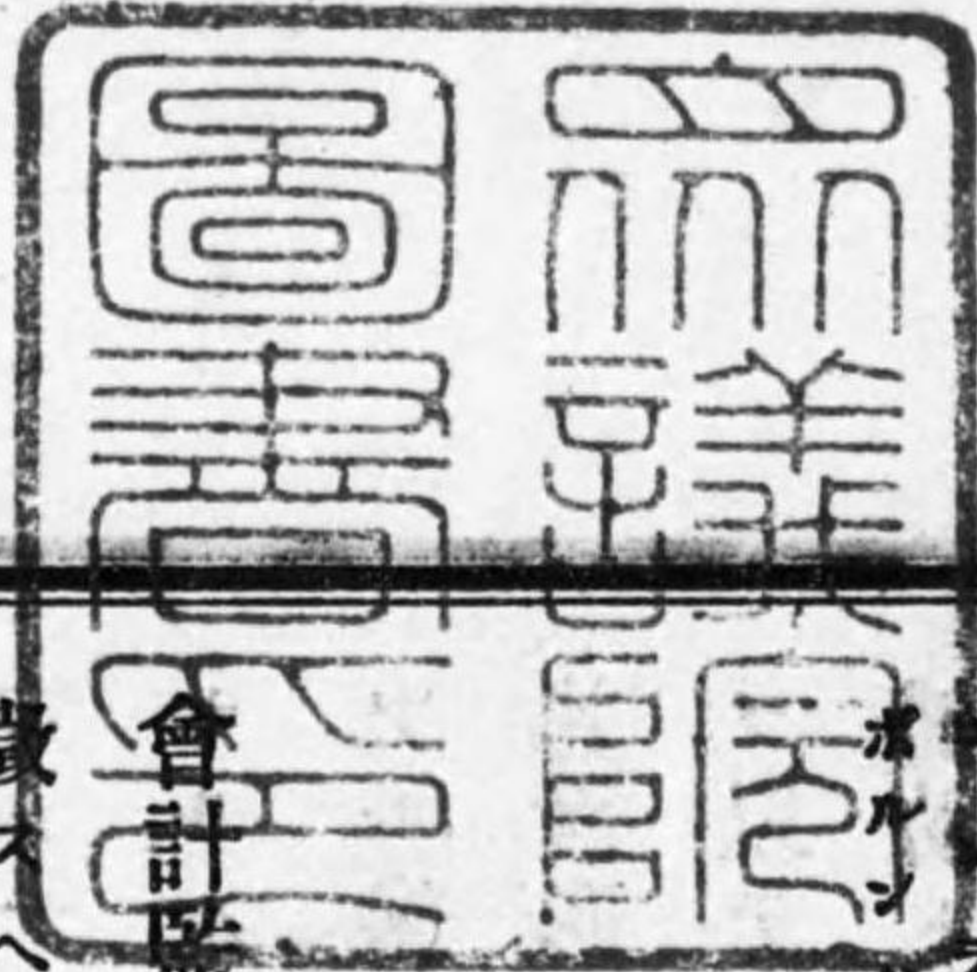


ホムロフ
ノド
豫算法及會計監督

有 松 英 義 譯

豫算制度及會計制度ノ沿革

會計監督ノ事タルヤ等族議會ヲ有セル族長政治ノ時代ヨリ業已ニ史跡ノ
徵スヘキモノアリ十五世紀以來獨逸各邦ニ於テハ王室ノ官内官制漸次更
革セラレ官務、國財、會計廳ト稱スル合議制官廳ヲ組織シ之ヲシテ當時君
侯ニ隷從セル財務官ノ會計ヲ監督セシメシコトアリ是ノ時ニ當リテ君侯
ノ財政ヲ掌レル各官吏ハ一切ノ收支ニ付キ右官廳ノ計算ヲ請ヒ而テ後其
責任ヲ免ルヲ常トシ簿記ノ制、計算ノ法亦頗ル備ハリシナリ然レモ本來
國家ヲ以テ世襲ノ私用物ト思惟セル族長政治ノ時代ナルヲ以テ其財政タ
ルヤ豪民ノ私經濟ト毫モ異ナル所ナク就中收入支出ニ付會計ノ時期ヲ定
メテ豫算ヲ作ルカ如キニ至テハ曾テ夢想セサリシ所ニシテ國君ハ之ヲ其



手ニ取テ其口ニ食フヲ以テ經濟ノ常經ト爲シ現在ノ所有財產ヲ以テ支出
ヲ償フテ足ラサレハ負債ヲ起シテ之ヲ補ヒタルノミ唯夫用度多端ナルカ
爲メ等族議會ノ承認ヲ得テ租稅ヲ徵收セサルヲ得サル場合ニ限り等族議
會ハ國君ニ對シテ會計ニ關スル證明ヲ要求シタルモノトス而テ徵稅ヲ承
認セサルヘカラサルノ事情アルコト及其徵收シタル租稅ハ如何ナル目的
ニ使用スヘキヤニ付若シ等族議會ノ要求アレハ政府ハ大體ノ辨明ヲ爲サ
サルヘカラスト雖是決シテ常時然ルニアラス等族議會ガ特ニ或ル時期ヲ
定メテ其徵收ヲ承認シタル租稅ハ要スルニ臨時國用ノ補助ニ充ツルニ過
キサルヲ以テ會計上ノ證明ヲ求メ得ル場合モ亦從テ稀有ナリ固ヨリ秩序
アル豫算ヲ作り以テ決算監督ノ基準トナスノ制度アリタルニアラス
其後形勢一變シ國君ノ私經濟收入ハ復タ國用ヲ充タスニ足ラス必ス租稅
ヲ以テ之ヲ補足セサルヘカラサルニ至リ從テ世人ヲシテ從來國用ノ臨時
補助ト稱セシ租稅ノ性質ヲ一變シテ國用ノ經久財源ト爲スヘキ必要ヲ是

認セシムルニ至リ是ニ於テヤ秩序アル豫算ノ制始メテ起ラントス然而テ
其制度ノ發達タルヤ獨逸諸邦互ニ其軌ヲ一ニセス或ハ等族議會カ租稅承
認ノ權利ヲ有セシモノアリ或ハ國君カ徵稅權ヲ絕對的ニ掌有セシモノア
リ其國狀ノ相同シカラサルニ從テ豫算制度發達ノ方向モ亦互ニ異ナレリ
即チ等族議會カ租稅承認權ヲ有セシ邦國ニ於テハ徵稅ニ對シテ豫メ時期
ヲ定メテ之カ承認ヲ與フルノ例ニシテ其方法タルヤ豫算ヲ以テ之ヲ承認
シタルナリ之ニ反シテ國君カ絕對的權利ニ賴リテ租稅ヲ徵收スル邦國ニ
於テハ豫算ヲ以テ國家財政ノ標準ト爲シタルニ相違ナキモ未タ曾テ豫算
ヲ以テ徵稅ノ承認ト看做シタルコトナク法律上ニ政略上ニ豫算ハ自ラ豫
算ニシテ徵稅命令ト何等ノ交渉ヲ有セサリシモノトス蓋シ獨逸各邦中豫
算ヲ以テ徵稅ノ基礎ト爲シタル邦國即チ前記第一種ニ屬スルモノハ中國
小國大抵皆然ラサルハナク又豫算ヲ以テ單ニ國家財政ノ標準ト爲スニ止
マリタル邦國即チ前記第二種ニ屬スルモノハ孛國特ニ然リシナリ而テ當

時ニ於ケル獨逸中等國ノ國法ハ自ラ豫算ニ關スル理論ニ一種ノ異色ヲ帶
ハシメ學理上其關スル所輕カラス殊ニ今特異ナル學國國法上ノ豫算制度
ヲ論スルニ方リテハ先彼等諸國ノ國法ニ付豫算制度ノ沿革ヲ記スルコト
恐ハ無用ノ業ニアラサルヘシ

四

等族議會ヲ有セル族長政治國ニ於テ徵稅ノ承認ヲ等族議會ニ求ムルニ方
リテハ必ス收入支出ニ關スル證明書ヲ併テ之ヲ議會ニ提出セサルヲ得ス
此證明書ノ提出アリタルキハ等族議會ハ之ヲ以テ某種租稅ノ果シテ徵收
ヲ要スヘキモノナルヤ否又其徵收額ハ果シテ至當ナルヤ否ヤニ付其意見
ヲ決定スルノ材料ト爲ス故ニ財政證明書カ自ラ一定ノ時期ヲ定メテ其間
ノ財政ヲ證明シ議會モ亦租稅ヲ以テ經久ノ財源ト爲スヘキコトヲ是認シ
而テ一定ノ時期ヲ限リテ之ヲ徵收スルコトヲ認諾シタルキハ議會エ提出
サレタル財政證明書ハ取モ直サス租稅承認ノ基礎即理由トナルナリ是レ
即チ獨逸各邦ニ於ケル憲法ノ定論ニシテ且舊時ノ法制ト相適合シタルモ

ノトス例ハ千八百十八年ノ「バイエルン」國憲法第七章第三條乃至第五條
ニ規定スルモノノ如キ即チ是ナリ其文ニ云

國王ハ一切ノ直稅ヲ徵收シ並ニ新ナル間稅ヲ徵收シ若クハ現行ノ間稅
ヲ増額若クハ變更スルニ方リテ議會ノ協贊ヲ求ムヘキモノトス
之ニ依テ議會開會ノ後ハ國家用需並ニ國家收入ニ關スル精細ナル一覽
書(豫算)ヲ議會ニ提出ス議會之カ提出ヲ受ケタルキハ委員ヲシテ之ヲ
審査セシメ而テ後租稅徵收ニ就キ開議ス

經常、存續、豫定ノ國家支出並ニ必要ナル準備金ニ充當スルカ爲メニ徵
收ヲ要スル租稅ハ各回六年(千八百六十五年以後ハ二年)ヲ一時期トシ
テ承認セラル、モノトス

此ニ因テ之ヲ觀レハ間稅ハ法律上確定セルモノニシテ每期承認ヲ要スヘ
キモノハ唯直稅アルノミ豫算ハ此直稅承認ノ理由書タルニ外ナラス且豫
算其物ニ就テハ議會ノ承認ヲ要スルニアラスシテ唯夫租稅承認ニ際シテ

其稅額ヲ増減スルノ結果トシテ間接ニ豫算上ノ支出ニ容喙スルコトアル
ノミ尤モ收入支出ハ互ニ其平ヲ得サルヘカラサルカ故ニ政府ハ議會カ承
認シテ國王カ裁可シタル稅額ヲ以テ其支出ヲ料理セサルヘカラス政府ハ
其支出ヲ爲スニ方リテ議會ノ承認シタル稅額ニ羈束セラレタルモノト謂
フモ決シテ不可ナキナリ之ヲ要スルニ每期ニ於ケル國會ノ協賛ハ豫算ヲ
協賛スルニアラスシテ單ニ收入豫算ノ一部分ナル直稅徵收ヲ協賛スルニ
過キス自餘ハ部分ニ於テハ豫算ハ唯租稅承認ノ理由書トナルニ止マリ支
出豫算ハ租稅承認ノ結果トシテ間接ニ政府ヲ束縛スルニ過キサルナリ
千八百十九年ノ「ウニルテンベルグ」國憲法第百九條以下ノ規定ハ國家會
計ニ關シテ更ニ考究ノ材料トナルモノアリ該憲法ノ規定ハ往時ニ於ケル
等族議會ノ制度ニ尤モ能ク適合スルモノニシテ豫算ノ調製ハ租稅承認ト
密接ナル關係ヲ有シ夫ノ等族議會ヲ設ケタル族長政治國ニ於ケルト一般
國家用需ヲ充タスニハ王有財產ヲ以テスルヲ其原則ト爲シ王有財產ノ不

足ヲ告クルキニ限り租稅ヲ徵收シテ之ヲ補ヒ其租稅ハ直稅タルト間稅タ
ルトヲ問ハス每會計時期議會ノ承認ヲ得テ之ヲ徵收シ通常三ヶ年ヲ以テ
會計ノ一時期ト爲ス而テ政府カ租稅ノ承認ヲ議會ニ要ムルニ方リテハ其
都度支出ノ必要ニシテ止ムヘカラサル事若クハ支出ヲ爲スヲ以テ國家ノ
利益ヲ増進スヘキ事及王有財產ノ之ヲ供スルニ足ラサル事ニ付之カ證明
ヲ付スヘキハ論ヲ須タス併テ既往歲計ノ支出ニ付テモ精密ナル證明ヲ與
エサルヲ得ス且「ウニルテンベルグ」國ニ於テモ議會協賛ノ目的トスル所
ハ會計時期ニ於ケル租稅ノ徵收ニ止マリ收入ノ租稅ニアラサル部分及支
出ノ全部ニ對スル豫算ハ憲法ノ規定ニ從ヒ租稅要求ノ辨明トシテ之ヲ議
會ニ提出スルニ過キス故ニ收入豫算ト雖其租稅ニアラサル部分ハ全ク議
會ノ干涉ヲ免レタルモノトス但シ豫算ノ形式ニ就テ觀察スルキハ「バイ
エルン」國ト大ニ其趣ヲ異ニシ即チ「ウニルテンベルグ」國ニ於テハ豫算全
體ヲ以テ法律ノ形式ニ依ルヘキモノトナスニ依リ此點ヨリ考フレハ支出

モ亦直接ニ議會ノ承認ヲ經タルモノト謂フコトヲ得ルナリ
千八百十八年ノ「バーデン」國憲法及千八百二十年ノ「ヘッセン」國憲法ニ依
レハ議會ハ每會計時期ニ於ケル租稅承認權ヲ有スルノミナリト雖唯夫收
入支出其物ノ性質トシテ相互密接ノ關係ヲ有スヘキモノナルカ爲メ議會
ハ其租稅承認權ニ依リテ間接ニ支出ニ對スル議決ヲ爲シ租稅法ノ協賛ヲ
爲スニ際シ其結果トシテ又一方ニ於テ國家ノ支出ニ關スル協賛ヲ爲シタ
ルナリ而テ「バーデン」國ニ於テハ國家一切ノ收入支出ハ議會ノ協賛ヲ經
テ發布スヘキ一括ノ豫算ト爲シテ之ヲ表出スルヲ例トシ且此方法ハ千八
百八十二年五月二十二日ノ憲法補則ニ依リテ適法ノ裁可ヲ得タリ然レモ
「ヘッセン」國ニ於テハ支出豫算ヲ以テ每會計時期ニ於ケル會計法律ノ附屬
ト爲スニ過キスシテ形式的法律トシテ公布スルノ例アラサルナリ
以上記載スル所ニ依テ南獨逸諸國豫算法ノ概略ヲ摘撮センニ南獨逸諸國
ニ於テハ租稅ニアラサル收入就中「バイエルン」國ニ於テハ現行法律ニ基

キタル間稅ヲモ包含シテ議會ノ協賛ヲ要セサルナリ然レモ「バイエルン」
國ニ於テハ直稅、其他ノ邦國ニ於テハ直稅間稅共ニ其獨逸帝國徵收ノ租
稅ニ屬セサル部分ハ悉ク議會ノ協賛ヲ要シ定期ノ財政法律ヲ以テ租稅徵
收ノ單一ナル法律上ノ根據ト爲シ定期ノ財政法律アルニアラサレハ政府
ハ徵稅スル能ハサルモノトス而テ議會ノ協賛ヲ經ルニ及ハサル收入支出
豫算モ亦租稅承認ノ理由書トシテ之ヲ議會ニ提出スト雖豫算ノ此部分ニ
付テハ本來議會ノ容喙ヲ許サ、ルヲ原則トス故ニ縱令豫算全部カ議會ノ
協賛ヲ經テ法律トシテ發布セラルヘキモ於テモ官有地收入及其他繼續
收入豫算ノ部分ニ付テハ決シテ議會ノ承認ヲ要スルモノニアラサルコト
ハ一般ニ是認シテ毫モ異論ナカリシ所ナリ若夫支出豫算ニ對シテ如何ナ
ル區域迄議會ノ參議シ得ルモノナルヤニ付テハ頗ル議論アル所ナリ議會
カ承諾ヲ與フルニ臨ミ政府提案ノ租稅額ヲ減省シテ間接ニ歲出總額ヲ制
限シ得タルコトハ疑ヲ容レスト雖歲出ノ分科ヲ定ムルコトニ付議會ニ何

程ノ權限アルヤハ容易ニ斷言スヘカラス此事タルヤ各國憲法互ニ其規定ヲ異ニスルヲ以テ本論ニ於テハ略シテ論及セス要スルニ本論ニ於テハ獨逸各中等國ノ豫算法ハ往時ニ行ハレタル等族議會租稅承認權ト密接ノ關係ヲ有シテ發達シタル事及夫ノ豫算ヲ定期租稅法律ノ附屬ト爲サスシテ豫算全体ヲ以テ一法律ト爲シタル邦國ニ於テサエモ議會參議ノ重モナルモノハ斷シテ收入豫算中租稅ノ部分ナリシ事ヲ示シ置クヲ以テ十分ト信スルナリ

若夫孛國豫算法ノ發達ハ大ニ前文ト其趣ヲ異ニスルモノアリ「デル、グロ―セ、クールフェールスト」(按千六百四十年乃至千六百八十八年在位「フリードリヒ、ウヰルヘルム」大侯ノ事ナリ)ノ治世ハ既ニ議會ガ定期ノ租稅承認權ヲ有セサルノ時代ナリシナリ國用ヲ充タスニ必要ナル租稅ハ總テ現行法ノ規定ニ從ヒ之ヲ徵收スルモノニシテ且其法律ヲ改正スルノ權利ハ十八世紀ノ前半紀以來專ラ國王ニ屬シ國王ノ獨斷ヲ以テ租稅法ヲ更改制定

シタルモノトス孛國普通法第二部第十三章第十五條ニ云國用ニ充ツルカ爲メ私有財產、各箇人、各箇人ノ營業、成産及消費ニ對シテ課稅スルハ陛下ノ大權トスト蓋シ此原則ハ普通法發布ノ前一世紀間ニ於テ行ハレ居タリシ所ノモノニシテ普通法ハ從來ノ原則ヲ其法文中ニ採用シタルニ過キス故ニ從令國家財政上ノ便益ヲ圖ルカ爲メニ一定時期ニ向ヒ豫算ヲ立ツルノ必要アルト雖租稅ニ付テハ決シテ豫算ヲ立ツルコトナシ何トナレハ租稅ハ定期豫算ニ依テ始メテ之ヲ取立テ得ヘキモノニアラスシテ元來法律ニ依テ之カ徵收ノコトヲ定メ其法律ヲ變更セサル限ハ舊ニ依テ之ヲ徵收スヘキモノナレハナリ要スルニ孛國豫算法ハ租稅徵收ノ命令ニアラスシテ其性質ノ主モナル點ハ會計上ノ監督ヲ便利ナラシムルニ在リタルナリ

孛國豫算制度ハ實ニ王「フリードリヒウヰルヘルム」第一世ノ世ニ起源セルモノトス千六百八十八年「クニップハウセン」家(按「ナルデンブ」ルグ大侯國)ガ「クール

フュールストリへ、ヅルヒロヒチヒカイト(按位爵ノ如キモノナリ)ノ領内ニ於ケル一切ノ官有地收入及一切ノ支出ノ總豫算ヲ定メタルコトアリト雖其所謂收入ナルモノハ單ニ國家收入ノ一部分ナル官有地及特權官業レカラインノ收益ヲ稱シタルニ過キサレナリ且當時ニ於テハ善良ナル國家財政ニハ定期ノ豫算ヲ以テ必要ト爲スコトヲ知ラス從テ每會計期ニ豫算ヲ新制改定スルカ如キコトアルナク一回定メタル豫算ハ長ク累年ノ會計上標準タリシ者トス千七百十四年ニ設置サレタル總會計院ガゼラルレツヘンカンメルカ千七百十七年ニ下セル訓令ニハ總豫算及各州豫算ノ事ヲ載セタリト雖其所謂總豫算及各州豫算ナル者モ國法上ニテハ甚々漠然トシテ未タ明白ナル目的ヲ有セサリシナリ總會計院ノ職權トシテ會計ヲ監督シタルニ相違ナキモ其監督ノ方法タルヤ獨リ豫算ニ適合セル科目ニ對シテ承認ヲ與エタルノミナラス凡ソ國王陛下ノ手署セルモノ及合議体ガ國王陛下ノ裁許ヲ得テ正當ニ收支セルモノハ如何ナル種類ノ會計ニ屬スルヲ問ハス悉皆適法ノモノトシテ承認シタルナリ

降テ千七百二十二年十二月二十日ノ總會計院ノ訓令ハ總豫算及各州豫算制定ノ方法ニ付キ稍詳細ナル規定ヲ設ケタリト雖是亦國法上ニハ稱スルニ足ルヘキ効果ヲ與エサリシナリ蓋シ千七百六十八年五月三十日ノ上等チーブル會計院レツヘンカンメルノ訓令ニ至テ始メテ見ルヘキノ制度トナレリ上等會計院ハ其職ヲ行フニ方リテ收入支出各別ニ監督シ且收入支出共ニ豫算上ノモノト豫算外ノモノアリト爲シ特ニ收入ノ監督ニ於テハ其豫算上ノモノト豫算外ノモノタルトヲ問ハス如何ナル場合ニ於テモ政府ニ對シテ其收入トシテ掲ケタルモノハ實際ニ於テモ亦收入シタルニ相違ナキコトノ證明ヲ要求シ若シ實際ノ收入カ豫算ト符合スルキハ其收入ハ正當ノモノトシテ其監督ヲ結了ス若又收入豫算ニ於テ避クヘカラサル不足ヲ生シタルキハ其額ハ支出ノ部分ニ於テ削減シ且支出ノ正當ナルコトヲハ支出委任書及確實ナル請取證書ニ依テ之ヲ證明セシメ之ニ反シテ豫算超過ノ收入アルキハ收入委任書ニ依テ之ヲ證明セシメ又豫算ニ基キタル收入ハ各種目ノ性

十四
質ニ從ヒ十分ナル辨明ヲ爲サシム然而テ豫算ニ基キタル支出ニ對スル監督ハ果シテ受取證書ノ之ヲ證明スルモノアルヤ否、果シテ實際豫算ニ示セル目的ニ適ヒ居ルヤ否、猶ホ若干ノ節減ヲ爲シ得サリシヤ否ヤヲ檢査スルニ在リ又豫算超過ノ支出及豫算外ノ支出ニ付テハ特ニ支出委任書及請取證書ヲ以テ支出ノ正確ナルコトヲ證明スルヲ要ス但其他ハ豫算ニ基キタル支出ノ監督ト毫モ異ナル所ナシ以上ノ規定ハ「トララチチューム」勅令ノ儘一字一句ヲ變更セスシテ再ヒ千七百八十六年十一月二日ノ訓令ニ移載セラレタリ

蓋シ此ニ至テ十八世紀ニ於ケル孛國ノ豫算法始メテ徵スルニ足ルモノトナレリ此豫算法ニ付第一ニ研究スヘキハ豫算ハ如何ナル物ナルヤニ在ラスシテ寧ロ如何ナル物ニアラサルヤニ在リ此間ニ對シテハ豫算ハ國家ヲシテ收入支出ヲ爲サシムヘキ法律上ノ基礎ニアラスト答フルノ外アラサルナリ抑モ豫算カ收入支出ニ對スル法律上ノ基礎トナラサル所以ハ當時

十五
ノ豫算ハ之ヲ公布スルコトナクシテ却テ之ヲ嚴秘シタル事實ニ徵スルモ既ニ明ナラン即チ豫算ハ臣民ニ對スル命令ニアラスシテ單ニ官廳内部ニ於テ官吏ノ行務ヲ制限スルモノニ過キサレナリ且豫算外ノ收入支出アリタレハトテ決シテ無効ト謂フコトヲ得ス豫算ニ基ケル收支ト豫算外ノ收支ニ關シテハ要スルニ唯會計監督ノ方法ヲ異ニスルノミ豫算ハ決シテ收支ノ基礎トナルヘキモノニアラス收支ニ對スル法律上ノ基礎ハ却テ諸般ノ法律上行爲ニ在ルナリ例ハ官有地及特權官業ニ關スル法規、租稅、法律、國庫ノ爲シタル私法上ノ契約、官吏任用、其他法律上當然國家會計ノ收入若クハ支出ヲ惹起スヘキ法律上行爲ハ實ニ國家收支ノ基礎タルナリ故ニ本來豫算ヲ定ムルノ目的タルヤ法律ニ基ケル諸般原因ノ爲メニ生スヘキ國家ノ收入及支出ニ對シ會計年度ニ向ヒ一定ノ經濟方案ヲ立、且併セテ國家財政及會計監督ノ基礎ヲ作ルニ在リテ決シテ收入支出ノ基礎ト爲スニアラサルナリ

千八百二十年一月十七日ノ閣令^{ガビツツルロ}ハ豫算ハ每三年ヲ期シテ之ヲ公布スヘキコトヲ命シタレモ其旨趣タルヤ人ヲシテ不法ノ理由ニ依リテ徵稅セラレ、コトナキヲ信憑セシメ又孛國發行ノ券低ヲ十分ノ信用ヲ措テ購求スルコトヲ得セシムル等國家ノ信用ヲ確カムルカ爲メノ方法ニ外ナラスシテ法律上豫算ノ性質ハ決シテ此閣令ノ爲メニ變更シタルニアラス又千八百二十四年十二月十八日會計検査院エ對シテ發シタル訓令第二十六條ハ憲法發布ノ時迄無限ノ効力ヲ有シテ行ハレタルモノニシテ其規定ハ正シク從來ノ法令ト相符合シタルモノナリ即チ其規定ニ云支出豫算各項ハ違越スヘカラサル法律上ノ準則タリ唯收入増加ノ爲メニ支出ノ増加ヲ來タシ増加シタル支出ト増加シタル收入ト互ニ填補シ得ヘキ場合ニ限り最上級行政官廳ハ該年度行政ニ於テ某特別項ノ支出ヲ該項豫算額ノ百分五迄増加スルノ許諾ヲ與フルコトヲ得右ノ外、國王ノ允許ヲ俟タスシテ爲シタル一切ノ支出増加ハ其増加額カ他項支出ノ節減ニ依テ填補シ得ルト否

トヲ問ハス總テ其支出ヲ爲シタル會計官吏又ハ行政官廳ノ過失トシ之ヲ處罰スルニ増加支出ニ相當スル金額ヲ沒收スルコトヲ以テスト
右ノ訓令ニ依テ見ルキハ當世紀專制政体ニ於ケル豫算ノ性質モ亦十八世紀ニ於ケル豫算ノ性質ト酷々相似タル所アルヲ知ルニ足ル即チ豫算ハ決シテ國家收入ニ對スル法律上ノ基礎トナルモノニアラス收支ハ却テ豫算ニ關聯ナキ諸般ノ法律上原因ニ基クモノニシテ就中租稅ハ勅令ニ依テ之ヲ定メ現行勅令ヲ改正スル迄ハ其規定ニ基キ舊ニ依テ徵收スルモノタリ故ニ其收入額カ豫算ニ掲出サレタルト否トハ收入ヲ爲スニ於テ毫モ顧慮スルヲ須非サルナリ獨リ收入ニ關シテノミ然ルニアラス支出ニ付テモ亦然ラサルハナシ豫算ハ國家ヲシテ支出ヲ爲サシムヘキ法律上ノ基礎ニアラス若シ支出ヲ爲スカ爲メニ豫算カ法律上ノ基礎トナルヘキモノナレハ各種ノ支出ハ獨リ豫算ニ違ハサルノ事實ノミヲ以テ其適法ヲ證明セサルヘカラスト雖實際ハ之ニ反シ即チ豫算ニ違ヒタル支出ヲ爲スコトアルモ其

支出ハ決シテ無効ニアラス啻ニ無効ナラサルノミナラス凡ソ官廳ハ某要件ヲ具エタル上ハ豫算額ヲ超過セシ支出ヲ爲シ得ルモノナラサルヘカラス殊ニ不法ニ豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモノト雖苟モ其處置カ越權ニアラサル以上ハ未タ以テ無効支出ト爲スヘカラス豫算ニ掲載セル支出ト等シク之ヲシテ有効支出タラシメサルヲ得ス蓋シ祇ニ當該官吏カ豫算超過ニ對シテ責任ヲ負担スヘキノミ故ニ豫算ハ收入ニ付テハ一ノ經濟方案タルニ過キス支出ニ付テハ經濟方案トナリ且官廳エノ訓令タルニ過キス而テ其訓令タルヤ官廳ノ權限ヲ消長スルニ足ラサルモノトス要スルニ經濟方案トシテハ財務政策上豫算アルヲ要スレモ國法上何等ノ必要モナシ又訓令トシテハ會計監督ヲ爲スノ基礎トシテ豫算ヲ須ユルニ過キサルナリ國家收入ニセヨ國家支出ニセヨ豫算ノ有無ニ依テ其法律上ノ効否ヲ決スヘキモノニアラサルナリ

以上法律上ノ關係ハ千八百四十八年迄馴致シ同年憲法ヲ發布スルニ至テ

始テ法律上豫算ノ性質ヲ一變セリ憲法第九十九條ハ國家一切ノ歲入歲出ハ各年ニ向テ豫メ之ヲ發表シ且毎年法律ヲ以テ定ムヘキ豫算ニ掲載セサルヘカラサルコトヲ規定シ而テ從來國王ノ獨斷ヲ以テ豫算ヲ定メタルコトヲ改メテ豫算ハ國王及國會兩院ノ合意アルニアラサレハ之ヲ定ムヘカラスト爲ス是ニ於テヤ專制政体ノ世態ニ於テハ何人モ夢想セサリシ且夢想セサリシカ爲メ憲法制定ノ際ニモ亦何人モ豫見シ能ハサリシ所ノ夫ノ國法上最モ重大ナル難問ハ憲法ノ實施ニ遭テ乃チ論客ノ爭點トナルニ至レリ

豫算ノ本体

代議院ハ國家一切ノ歲入歲出ヲ毎年承認シ政府ヲシテ經常ノ行政事務ヲ執行スルコトヲ得セシムヘシトハ當世紀ノ半バニ至ル迄立憲政体ノ原則トシテ學者ノ是認セシ所ナリ此原則ハ英國國法ノ誤解ニ出テタルモノナルヤ若クハ英國國法ノ精神ヲ獲タルモノナルヤニ付テハ本論ニ陳辨セサ

ルヘシ何則此ノ如キ意見ガ一般ニ行ハレタルハ疑フヘカラサルノ事實ニシテ英國國法ノ精神如何ハ顧テ之ヲ問フノ必要アラサレハナリ而テ大陸諸國ニ於テ此ノ如キ意見ノ行ハレタル所以ハ舊來固着セル理想カ偶マ此ノ意見ト相投合シタルコト其理由ノ主要ナルモノトス夫レ租稅承認權ハ實ニ等族議會カ專制政体ニ對スル權力ノ中點タリキ等族議會ハ其議會ノ猶ホ存續スル限ハ常ニ租稅承認權ヲ把持シテ之ヲ放ツヲ肯セサリシナリ故ニ等族議會若クハ代民議會ヲ再興セント欲スル希望ニハ必ス又議會ニ租稅承認權ヲ有セシムヘシトノ考案アリテ之ニ附帶セシナリ孝國代表ノ委員カ獨逸各邦ヨリ維也納會議ニ派出シ得ヘキ議員ノ最低數ヲ連邦決議條款ヲ以テ認證シ置カサルヲ得スト唱エテ熱心ニ之ヲ主張シタルモ職トシテ租稅承認權ニ重ヲ置キタルニ之レ由ラサルハナシサレハ孝國ニ新興シタリシ議會ノ法律ハ議會ニ與フルニ未タ特別ナル財政上職權ヲ以テシタルコトナキニモ拘ハラヌ千八百四十七年二月三日ノ公達ニ至リテ孝國

國法上數百年來ノ經歷ヲ破リ特ニ財政法律ニ限リテ大ニ他ノ法律ト區別スル所アリシモ實ニ是レ舊時ニ於ケル等族議會ノ遺制ト現時ニ於ケル立憲制論者ノ議論ニ歸依シテ然リシモノニアラサルハナシ即チ國會ハ凡ソ立法ニ關シテハ單ニ諮詢ニ應シテ陳論シタルニ過キサルモノナルニ獨リ新稅ヲ起シ及現行租稅ヲ增額スルニ限リ國會ノ協賛ヲ以テ必要ノ條件ト爲スニ至リタルナリ

孝國憲法ノ藍本タル白耳義國憲法ハ明ニ立憲制論者ノ論旨ヲ其條文ニ掲ケタルヲ以テ彼ノ朝定幕改ヲ以テ有名ナル佛國憲法ハ復タ之ヲ引用スルノ要ナシ白耳義國憲法ニ依ルニ租稅ハ毎年定ムヘキ法律ニ依テ之ヲ承認スヘキモノトス但議會ハ獨リ定期ノ租稅徵收ヲ承認スルノミナラスシテ豫算全体ヲモ討議スルノ權ヲ有スルナリ然レモ議會參與ノ重大ナルモノハ往時ニ於ケル各邦等族議會ノ權限又南獨逸諸國憲法ノ規定ト其方向ヲ同フシ實ニ定期租稅承認ノ一點ニ在ルナリ而シテ定期租稅法律ハ租稅

徵收ノ爲メ自ラ法律上ノ基礎トナルモノニシテ之ナケレハ租税ハ決シテ
徵收スルコトヲ得ス租税徵收ニ關スル原則ハ終始一定シテ變セサルニモ
セヨ之ヲ徵收スルニ付テハ法律上必ス一年限ノ法律ヲ要スルナリ且此無
限ナル租税承認權ハ其範圍施非テ國家財政ノ全体ニ及フヘシ獨リ官有地
及官業ノ收益ノミニ倚リ行政ノ活動ヲ保ツコトハ現時ノ國家ニ於テ決シ
テ爲シ得ヘキ所ニアラサルヲ以テ無限ナル租税承認權ヲ有スルハ取モ直
サス國家財政ノ全權ヲ掌握シ且同時ニ國家行政權ヲ專行スルモノト謂ハ
サルヲ得ス故ニ此ノ如キ租税承認權ノ施用ハ間接ニ國家ノ全經濟ニ關ス
ル處分權ノ施用ト謂フモ決シテ不可ナカルヘシ殊ニ議會ヲシテ豫算討議
ノ權ヲ有セシムルノ一事ハ正ニ以テ財務處分權ノ議會ニ在ルコトヲ明認
シタルモノト謂ハサルヲ得ス如何トナレハ議會ハ國家一切ノ歲入歲出ヲ
議決シテ國王ノ裁可ヲ請フコトヲ得レハナリ然ト雖其決議タルヤ固ヨリ
其目的ヲ一ニセス租税外ノ歲入ニ關シテハ豫算ハ斷シテ之ヲ收得スルカ

爲メノ法律上ノ基礎トナルモノニアラスシテ畢竟一種ノ經濟方案タルニ
過キス此ノ經濟方案ハ國法上固ヨリ何等ノ効力モアラサルヲ以テ豫算ナ
シト雖歲入ハ依然之ヲ收得スルコトヲ得之ニ反シテ租税ニ關シテハ豫算
ハ之ヲ徵收スルカ爲メ唯一ナル法律上ノ基礎トナルモノニシテ凡ソ租税
ハ豫算ナケレハ之ヲ徵收スルコト能ハサルモノトス若夫支出ニ關シテ白
耳義國憲法ノ豫算ハ如何ナル効力ヲ有スルヤニ至テハ今之ヲ説クノ必要
ナシ

孛國カ政体ヲ改革シテ憲法ヲ制定スルニ方リテ主トシテ白耳義國憲法ヲ
模倣シタルコトハ世人擧テ知ル所ニシテ殊ニ其法文ハ最モ能ク藍本ノ痕
跡ヲ留ムト雖翻テ其實体ヲ觀察スルハ大ニ然ラサル所アリ即チ舊來ノ
孛國國法カ白耳義國法ト其精神ヲ異ニスル部分ニ於テハ斷乎トシテ固有
ノ精神ヲ守持シ決シテ白耳義國憲法ノ規定ニ順從セサリシナリ孛國憲法
第九十九條ハ實ニ左ノ如ク規定セリ云ク

國家一切ノ歲入歲出ハ各年ニ向テ豫メ之ヲ發表シ且豫算ニ掲載セサルヲ得サルモノトス

豫算ハ毎年法律ニ依テ之ヲ定ム

此ニ因テ之ヲ觀レハ豫算ハ期限ヲ定メ且各年ニ向テ特ニ之ヲ制定スルモノトス但其年ニ於ケル數部ノ豫算ヲ一時ニ議定シ置クハ憲法ノ禁セサル所ナリ而テ會計年度ハ毎年四月一日ヨリ始マル(千八百七十六年ノ法令全書百七十七頁ニ掲載セル千八百七十六年六月二十九日ノ法律參照)法律上正當ナル豫算ノ解釋ヲ下サントスルニ方リ人ヲシテ甚タ其困難ヲ感セシメタルモノアリ何ソヤ他ナシ豫算ハ法律ニ依テ定ムヘシト云ノ法文是ナリ今ヤ學國國法ノ所謂法律ナル語ノ意義ハ既ニ判明シテ復々疑ヲ容レサルニ至リシト雖豫算及法律ハ本來相牽連シテ互ニ分離スヘカラサルノ關係ヲ有スルヲ以テ國法上ヨリ豫算ノ何物タルカヲ論究セントスルニハ先ツ一着ニ法律ノ何物タルヲ論究セサルヲ得ス豫算及法律ニ關スル

著書ハ從來既ニ少ナカラス動モスレハ法律及法則ヲ混視スルモノアリ若シ果シテ法律則チ法則ナリトセハ夫ノ法律ニ依リテ定ムヘキ豫算モ亦タ收入支出ニ關スル規準定則即チ法則ナリト謂ハサルヲ得ス從テ豫算ヲ以テ收入支出ヲ爲スヘキ法律上ノ基礎ト爲シ豫算ヲ得サル間ハ收入支出ヲ爲スヘカラサルモノト斷論セサルヘカラサルニ至ラン然レモ法律ナル語ニハ時トシテ形式上ノ意義ヲ有スルニ止マルモノアリト爲スノ論者アリ其說ニ依レハ豫算ハ單純ナル形式的法律ニシテ決シテ法則的性質ヲ有スルモノニアラス且獨リ法則的性質ヲ有セサルノミナラス却テ現行法則ヲ基本トシ其規定ニ從テ發スヘキ行政上行爲ニ過キスト謂エリ蓋シ法律ナル語ニ關シテハ曾テ之ヲ詳論シタルコトアルヲ以テ(ポルンハック學國國法論一卷七十七頁以下)今此ニ喋ヤスル限ニ在ラス要スルニ法律ナル語ハ議會ノ協賛ヲ以テ發表シタル國王ノ意思ト謂フ義ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ稱シテ法律ト謂ヒタレハトテ法律ナル語ハ未タ以テ豫算ノ性質如

何ヲ決スルニ足ラサルモノトス故ニ豫算ヲ法律ニ依テ定ムルノ事實ヲ標準トシテ頼テ以テ法律上豫算ノ性質ヲ決定セント欲スルハ大早計ト謂ハサルヲ得ス憲法ハ法律上有効ナル豫算ヲ定ムルノ順序手續ヲ規定シタルノミニシテ未タ曾テ豫算ノ本体如何ヲ定メタルコトナシ豫算本体ノ何物ナルヤニ就テハ憲法ノ明文外ニ正當ナル解釋ヲ求メサルヲ得ス豫算ノ解釋ニ拮据シタルモノ世其人ニ乏シカラス或ハ豫算ハ法律ナリト云フノ法文ヲ本據トシテ立論スル者モアリテ紛々擾々互ニ相下ラス然レモ其類ヲ以テ其所屬ヲ分タハ大別ニ派ノ學說ニ歸ス即チ第一說ハ現時「ヘーデル」フキン、マルチツ「ツナルン」諸氏カ特ニ主張スル所ニシテ其說ニ依レハ豫算ヲ以テ法律タルノ性質ヲ具有スルモノト爲シ收入支出ノ絶對的基礎ハ豫算ニ在ルヲ以テ設シ豫算ニ合ハサルモノアルモハ法律上ノ基礎ヲ欠キタル違法無効ノモノナリト云フニ在リ又第二說ハ豫算ヲ以テ國家財政ノ絶對的基礎ナリトハ稱セサレトモ之ヲ以テ相對的ノ基礎ナリ

ト思惟スルモノナリ此論者中ニハ法律ニハ形式的意義ヲ有スルモノアリトノ說ニ左袒スル者及反對スル者ノ兩派アリ而シテ其議論ノ詳細ニ至テハ各派更ニ多少ノ異同アリ「フキン、レンネ」氏ハ豫算ヲ以テ官廳ニ與ヘタル委任ト爲シ官廳ハ本來法律ニ依テ定マリタル收入ヲ徵收シ又各般ノ支出ヲ爲スカ爲メニ必ス豫算ヲ以テ委任狀ニ代エサルヲ得スト論シ「アルント」氏ハ「レンネ」氏ト殆ト其論旨ヲ同クスレトモ同氏ハ法律上ヨリ豫算ノ性質ヲ論シテ唯政府及議會間ニ行ハルヘキモノニシテ國家及債權者債務者ノ間ニ關係ヲ有スルモノニアラスト云ヘリ「サイドレル」氏ハ「レンネ」氏「アルント」兩氏ノ相對的必要說ニ同意スルモノナリト雖其論說ハ却テ「レンネ」氏「アルント」兩氏ト異ナル點アリ氏ハ豫算ヲ以テ委任トナサスシテ而テ行政ヲ爲ス爲メノ法律上要件ト爲セリ又第三說ハ法律ニハ形式的意義ヲ有スルニ過キサル者アリ殊ニ豫算法律ハ一種特異ノモノニシテ尋常ノ法律ト同一視スヘカラス即チ單ニ形式的意義ニテ之ヲ法律ト稱スルニ過

キスト論スルモノニシテ現今此種議論ヲ爲スモノハ「フリケル」ホン、グナ
 イスト「ラバント」ホン、ダグベル「ヘルマン、ホン、シユルチェ」ゲヲルグ、マ
 イエル「セリグマン」ブラツァク「エリ子ク」諸氏ヲ以テ其尤ナルモノトス
 此諸氏中ニテモ其説ノ詳細ニ至リテハ各多少ノ異同アリ固ヨリ一概ニ品
 評スヘカラスト雖豫算ヲ以テ羈束力ヲ有スル法則ト爲サスシテ却テ現行
 法規ヲ以テ豫算ヲ定ムルノ要件ト爲シ豫算ハ宜シク現行法規ニ基キテ之
 ヲ定ムヘシト云ヘル大主趣ニ至リテハ諸氏皆一轍ニ出テサルハナシ諸氏
 ノ論ニ依ルキハ豫算ハ現行法ノ規定ニ基ケル收入及法律上必要ナル支出
 ニ關スル經濟方案乃現行法ノ施行命令タルニ外ナラサルナリ故ニ法律ノ
 基クヘキモノアラサル支出ニ關シテハ豫算ヲ以テ法律上ノ基礎ト看做シ
 得サルニアラスト雖其他ノ場合ニ於テハ決シテ法律上ノ基礎ニアラス況
 ヤ法律上ノ必要ニ出テサル豫算サエモ未タ以テ該支出ニ對スル法律上ノ
 基礎トナスヘカラスト論斷セルモノ諸著概子然ラサルナキニ於テヲヤ

蓋シ法律上ヨリ豫算ノ本体ヲ明晰ナラシメントスルニハ收入豫算支出豫
 算ヲ各別ニ論究セサルヲ得ス

國家收入ニ關シテハ豫算ハ收入豫定額ノ發表タリ之ヲ收入豫定額ノ發表
 トナスコトハ憲法發布前ニ行ハレタル豫算法ノ性質ト吻合スルモノニシテ
 李國ニ於テハ古來未タ曾テ豫算ヲ以テ收入ニ對スル法律上ノ基礎ト爲シ
 タルコトナシ要スルニ收入豫算ハ主トシテ財政上ノ必要ニ出テタルモノ
 ニシテ且併セテ會計監督ノ方便ト爲セシナリ而テ會計監督ヲ資クルハ第
 二次ノ目的ニシテ其第一ノ目的ハ則チ財政方案ト爲スノ點ニアリ然レモ
 其租税ノ入額タルト他ノ入額タルトヲ問ハス一切ノ收入ハ豫算ヲ俟テ始
 テ之ヲ收得スルモノニアラス凡ソ收入ハ別ニ法律上ノ原由アリテ之ヲ收
 得スルモノニシテ豫算ハ收入ヲ爲スニ付テ何等ノ要件トモナラザリキ夫
 レ舊來ノ豫算既ニ此ノ如キモノナル以上ハ現時ノ豫算モ亦舊ニ依テ此ノ
 如キモノナリト斷定セサルヲ得ス若シ憲法制定ノ時ヲ以テ豫算法ヲ一變

シ豫算ヲ以テ國家收入ニ對スル法律上ノ基礎ト爲サント欲セハ舊法ノ改正ニ付必ス法ノ明文ナキヲ得ス然ルニ獨リ之カ法文ヲ設ケサルノミナラス憲法ハ却テ豫算ヲ以テ收入豫定額ノ發表タルヘキ旨ヲ明言シ以テ舊豫算法ノ性質ヲ變更セサルコトヲ示セリ加之租稅徵收ハ豫算ニ依ラサルコト是レ特ニ憲法ノ明言セル所ナラスヤ租稅ニ關スル憲法ノ規定ニ依テ考フルモ憲法ハ舊豫算法ノ性質ヲ變セスシテ之ヲ法文ニ採用シタルモノト謂ハサルヲ得ス然則法律上收入豫算ノ性質タルヤ其旨テ許多ノ爭論ヲ惹起シタルニ拘ハラヌ今ヤ乃チ疑點消滅明瞭ナル解釋ヲ得タルモソト謂ハサルヲ得サルナリ

租稅收入ニ關シテハ憲法第百條ニ租稅ハ豫算ニ掲載シ若クハ特別法律ヲ以テ定メタルモノニ限り之ヲ徵收シ得ルコトヲ規定シ且第百九條ニ憲法發布ノ當時ニ於ケル現行租稅ハ法律ヲ以テ定メタル租稅ト同一タルヘキコトヲ規定ス故ニ租稅ハ本來法律ノ規定ニ基クニアラサレハ之ヲ徵收ス

ヘカラサルハ論ヲ須タサル所ナリト雖一旦租稅法律ノ成立シタル上ハ其租稅ノ收額カ豫算ニ掲載セラレタルト否トハ毫モ問フヲ要セサルナリ縱令豫算ニ掲載セラレスト雖租稅ハ法律ニ依テ正當ニ之ヲ徵收スルノ權利アリ何則國家ハ豫算ニ依テ租稅ヲ徵收スルニアラスシテ而テ特別法律ノ規定ニ基テ之ヲ徵收スルモノナレハナリ

然レモ出入相量制シテ互ニ欠額ナカラシメント欲セハ假ニ一時限ノ租稅ヲ徵收シテ以テ其不足ヲ充タサ、ルヲ得サルノ場合アルヘシ而テ一時限ノ租稅モ亦法律ニ依テ之ヲ規定セサルヘカラス且法律ニ依テ之ヲ規定スレハ則チ足レリ豫算ハ法律ニ依テ之ヲ定ム亦一種ノ法律タルニ相違ナシ

一時限ノ租稅ヲ徵收スルカ爲ニ既ニ一時限ノ豫算法律ヲ定メ又更ニ一時限ノ租稅法律ヲ設ケテ互ニ相重複セシムルハ豈ニ其便宜ヲ得タルモノト謂フヘケンヤ顧テ未タ特別法律ヲ以テ規定セサル租稅モ其既ニ豫算ニ掲載サレタルモノハ之ヲ徵收スルヲ得ル旨憲法ノ條規ニ定メタルモ其理由

ハ職トシテ此レニ之レ由ラサルハナシ但字國ニテハ實際豫算ヲ基礎トシテ一時限租税ヲ徵收スルノ例ナク一切ノ租税ハ必ス特別法律ノ規定ヲ須テ之ヲ徵收セリ故ニ現行租税ヲ豫算ニ列載スルト否トハ租税徵收ニ付キ法律上ノ効力ヲ輕重スルニ足ラサルモノトス

租税豫算ヲ稱シテ租税收入ニ必要ナル法則ト爲シ之ニ羈束的性質ヲ與エントト説クハ昔日曾テ其議論ノ卓絶精到ヲ稱スルモノ之アリタラン然レモ今日ニ於テハ誰カ其巧辭ニ惑ハサレンヤ回顧スレハ獨逸法學者ハ嘗テ此種虛構ノ説ヲ爲シテ太タカメタルコトアリ而テ其論旨ハ大別ニ二様ナリキ即チ第一種ノ論旨ニ依ルキハ租税法律ハ單ニ徵税ノ大則ヲ汎定シタルニ過キスシテ之ヲ實際ニ適用スルニハ必ス豫算法律ノ特別規定ヲ要スト云フニ在リ(ツッパルン)氏著書第二卷三百三十六頁以下)實ニ然リ此ノ如キ事態モ稀ニハ之ナキニアラサルヘシ(バイエルン)國ノ法律ニ實例アリ(サイデル)氏(バイエルン)國國法論第二卷四百十四頁參照)然レモ這般事態ハ法

律上並ニ政略上ノ欠典タラサルヲ得ス且其事タルヤ必ス首タル法律例ハ本論ノ場合ニ於テハ租税法律中ニ明文ヲ以テ之ヲ規定シ置カサルヘカラス然ルニ租税法律ハ啻ニ右等ノ規定ヲ設ケサルノミナラス却テ之ト反對ノ精神ヲ以テ積極的ニ其施行期限ヲ規定スルヲ通例トス然則豫算法律アルニアラサレハ租税ヲ徵收スルコト能ハスト爲スノ論者ハ斷然現行法律ト支吾スルモノト謂ハサルヲ得ス又第二種ノ論旨ニ依ルキハ租税法律ハ臣民ヲシテ納税義務ヲ負ハシメ行政官廳ヲシテ徵税權利ヲ得セシムルモノナリト雖未タ行政官廳ヲシテ徵税義務ヲ有セシメス行政官廳ハ豫算法律アリテ始メテ豫算定額ノ收入ヲ爲スヘキ義務ヲ有ス故ニ租税ノ收入ハ如何ナルコトアルモ豫算定額ヲ出入スルヲ得スト云フニ在リ(ヘーデル)氏著書三百二十頁)然ト雖此説亦取ルニ足ラス凡ソ法律ハ其如何ナルモノタルヲ論セス必ス之ヲ執行スルコト是官廳ノ義務タルナリ然ルニ獨リ租税法律ノミ執行ノ權利アリテ却テ執行ノ義務ナシト謂フハ豈事理ヲ辨スル

モノ、言ナラシヤ論者ノ言ノ如クシハ刑法モ之ヲ執行スルカ爲メニハ必
 ス特別ノ法律ヲ要スヘシ何則官廳ハ刑法ニ依テ謀故殺ヲ處罰スルノ權利
 ヲ有スレト之ニ添フルニ特別ノ法律ヲ以テセサル間ハ之ヲ處罰スルノ義
 務ヲ有セサルコト實ニ論者ノ論法ナレハナリ嗚呼天下豈此理アラシヤ夫
 レ租税ノ金額ハ租税法ニ依テ定マレリ官廳ハ法律ノ定メタル租税ヲ徵
 收スルコトヲ得又之ヲ徵收セサルヲ得サルモノトス之ヲ徵收シテ豫算額
 ニ符合スヘキヤ否ヤハ徵收ノ結果ニ於テ事實ニ著ルヘシ何人モ官廳ニ對
 シテ必ス豫算額ニ違ハサル租税ヲ徵收スヘシト命令スル能ハサルヘシ縱
 令之ヲ命令スルコトアルモ實際ノ徵收豈豫算額ト毫厘ヲ差ヘサルヲ期ス
 ヘケンヤ

若夫租税以外ノ收入即チ官有地、官業、特權官業等ノ收入ニ關シテハ議會
 ノ無限絶對的租税承認權ヲ是認セル邦國ノ憲法ニ於テスラ豫算ヲ以テ收
 入ニ對スル法律上ノ基礎ト爲スモノアラス何レノ國ノ憲法ニ照スモ此種

收入ハ私法上若クハ公法上ノ種々ナル理由ニ依テ徵收サル、モノニシテ
 豫算ハ唯其收入金額ヲ列載セル一覽表タルニ過キサルモノトス學國ニ於
 ケルモ亦然リ此種收入ニ付テハ未タ曾テ特別ナル豫算ノ承認ヲ要シタル
 コトナシ(原註「ホシ、レン子」氏學國國法論第一卷六百三十五頁第一ハ本論
 ト反對ノ論旨ヲ載セタルトモ何故ニ反對ナルヤノ理由備ラス夫レ如何
 ナル收入ニ對シテモ豫算ヲ以テ之カ基本トナササルコト憲法發布前ノ有
 様ナリ果シテ然ラハ若シ之ヲ變更シテ豫算ニ依テ始メテ收入ヲ爲スヘキ
 モノトナサシニハ必ス法ノ明文ヲ以テ之ヲ特定セサルヲ得ス然ルニ此ノ
 如キ法文ナキハ論ヲ俟タス加之憲法第九十九條ハ豫算ヲ以テ收入支出ノ
 豫定發表ト爲スヲ明言セリ是レ正ニ憲法發布前ノ豫算法ト一致セルヲ
 示スモノニアラスシテ何ソヤ或ハ謂ハン憲法ハ舊來ノ法例ヲ一變シテ新
 ニ立憲政体ノ本義ヲ採用シタルモノニシテ憲法第九十九條ハ決シテ憲法
 發布前ノ豫算法ト同一視スヘカラスト、可ナリ請フ假ニ然リト爲セヨ然

ヲハ則租税以外ノ收入ヲ爲スニ付議會ノ承諾ヲ要スルモノ何レノ邦國ニ其例アリヤ之ヲ立憲政体國ニ問ヒ之ヲ議院政体國ニ質シ之ヲ憲法ノ條規ニ照シ之ヲ學者ノ理論ニ徵スルモ租税以外ノ收入ニ付議會ノ承諾ヲ要スト謂ヘルモノハ蓋シ一モ其例ヲ見サルナリ李國憲法カ立權制論者ノ說ヲ採リタリト假定スルモ租税外收入ノ豫算ニ關シテ何ノ輕重スル所カ之アラシ又況ヤ議會ヲシテ收入ヲ承認セシムヘシト爲セル所謂立憲政論者ノ說ハ租税收入ニ關シテ憲法カ特ニ明言シテ排斥シタル所ナルニ於テヤ他ノ立憲政國ニ於テ宜シク議會ノ承認ヲ要スヘキ租税收入ニ就テスラ既ニ斷然一機軸ヲ出シテ之カ承認ヲ要セスト定メタル李國ノ憲法ナリ豈顧テ他ノ立憲政体國ニ於テサエモ猶ホ議會ノ承認ヲ要セストナセル租税以外ノ收入ニ付獨リ豫算ヲ以テ其法律上ノ基礎ト定ムルコアラシヤ亦以テ李國憲法ノ精神ヲ知ルヘキナリ以上事理ノ明白ナルニモ拘ラス若シ猶ホ租税外收入ノ承認ヲ以テ現行法律ノ要件ト論スルニ至テハ其所謂承認ハ

法律上有名無實ノモノニ歸セサルヲ得ス抑モ租税ニアラサル義務ヲ國家ニ對シテ履行スル者ト國家トノ關係ハ李國普通法第二編第十四條ニ規定セルカ如ク國法上ノ法規ヨリ生スル關係ニアラスシテ全ク私法上ノモノタルニ過キス故ニ行政官廳ハ豫算ノ有無ニ拘ラス債務者ニ對シテ其訴權ヲ行フコトヲ得ヘク又債務者ハ之ヲ支拂フノ義務ヲ有ス若シ政府之カ支拂ヲ受ケサルキハ債務者ハ之ヲ供托スルノ權利アリ此場合ニ於テハ當然請求權ヲ有スル官廳ニ代リテ供托ヲ受ケタル官廳カ義務ノ辨濟ヲ受ケタルナリ

以上論シ來リタル所ニ依テ考フレハ豫算ハ國家收入ヲ爲スカ爲メ法律上ノ基礎ト爲ルヘキモノニアラス國家收入ヲ爲スニ方リテハ法律上豫算ノ有無ニ拘泥スルヲ要セサルナリ然リト雖收入豫算ノ制定ハ國家ノ活動ニ必要ナシト謂フハ則チ不可ナリ議會ハ收入豫算各科目ヲ議スルニ方リテ親切ナル注意ヲ爲スニ及スト謂フハ則チ不可ナリ且議會ハ政府提出ノ豫

算案ヲ修正シテ收入各科目ヲ増加若クハ削減スルノ議決ヲ爲スコトヲ得ル
 事ヲ唯夫這般議決ハ法律上實際ノ收入ヲ増減シ能ハサルノミ議會カ收入
 科目ヲ増減シ實際爲シ能ハサルコトヲ議決シ置クモ何ノ益カアラシ議會
 ハ政府提出ノ豫算案ニ對シ猶ホ若干ノ増加若クハ減少アルヘキ見込ナリ
 此議決スルニ過キズ而テ政府ノ見込ト議會ノ見込ト何レカ果シテ其當ヲ
 得ヘキヤハ會計ノ結果ヲ告クルヲ待ツニアラサレハ之ヲ決スル能ハサル
 若又支出ヲ豫算ニ掲載スルノ理由ニ至リテハ憲法唯其豫定發表タルヘキコ
 トヲ規定シ其他何事ヲモ明言セル所ナシ憲法第九十九條ニ依ルルハ支出
 ハ總テ之ヲ豫算ニ掲載セサル可カラズト雖偶々豫算ニ掲載セサル支出ア
 リタレハトテ未タ無効支出ト爲スコトヲ得ス試ニ思ヘ收入モ亦々總テ豫
 算ニ掲載スルニアラヌヤ然レモ收入就中租稅ハ豫算ナシト雖之ヲ徵收シ
 得ルコト憲法ニ明ニ規定スル所ナリ支出ノミ豈獨リ然ラズト謂フコトヲ

得ンヤ又憲法第一百四條第一項ハ豫算超過ノ支出ハ後日兩議院ノ承諾ヲ求
 ムルコトヲ要スト規定セリト雖是唯一切ノ收入支出ハ豫算ニ掲載スヘシト
 ノ原則ニ適ハシムルニ過キスシテ未タ之ニ依テ支出ヲ豫算ニ掲載スヘキ
 理由ヲ決スルニ足ラサルモノトス(原註實際ニ依ルルハ事後承認ヲ要ス
 ルハ豫算超過ノ支出ニ限り收入超過ハ此例ニ在ラス法理上ヨリ之ヲ觀察
 スルモ收入超過ニ付テハ決シテ事後承認ヲ要スヘキモノニアラス何則收
 入ハ國法上豫算ヲ須テ始メテ之ヲ爲スヘキニアラサルコト本來ノ性質ナ
 レハナリ)彼ノ公法上議會ニ租稅承認權アリト爲セル邦國ニテハ議會權
 勢ノ主要ナル點ハ租稅ノ承認ニ在リ支出ニ關シテハ間接ニ其承認ヲ爲ス
 即チ其方法タルヤ議會ニ於テ其承認セル租稅金額ノ支辨方法ヲ定メ置ク
 ニ在リ(適用條件)然ルニ李國ニ於テハ租稅承認ノ事ナキト共ニ亦支出ノ
 間接承認モ亦行ハレサルナリ
 憲法議定ノ當時ニ於テ支出豫算ニ關スル意見ハ既ニ區々ニシテ其紛争モ

亦甚カリシナリ或ル論者ハ以爲ク欽定憲法第九十八條ニ依ルモ又修正憲法第九十九條ニ依ルモ議會ハ無限ノ支出認否權ヲ有スルヲ以テ別段租稅承認權ヲ有スルニ及ハスト(原註千八百四十九年九月二十四日二十五日二十六日ノ下院速記録第一卷三百七十九頁以下及千八百四十九年十月十六日十七日十九日ノ上院速記録千百十三頁以下並ニ千百四十九頁以下)然ルニ次年度ニ於テ内閣ハ其意見ヲ公表シテ曰ク憲法ノ條規ニ從ヒ租稅ノ繼續徵收ヲ裁可セラレタル上ハ豫算ナシト雖政府ハ租稅ニ依テ得タル金額ヲ國用ニ充用スルコトヲ得ヘシ是レ固ヨリ政府ノ職權ナリト故ニ千八百五十年十二月十六日ノ内閣決議(原註千八百五十一年下院印刷物第三百二十四號及千八百五十年並五十一年速記録第一卷三百三十頁)ノ大要ハ左ノ二點ナリシナリ即チ(甲)經常行政ニ要スル支出(經常歲出)ニシテ前年度豫算ニ依テ定メラレタル儘其金額ヲ以テ本年度豫算案ニ編入シタルモノハ別段其必要經費タルコトヲ證明セスシテ直ニ之ヲ支拂フコトヲ得

ヘシ(乙)之ニ反シテ其他ノ支出即チ經常行政ニ要スル費用(經常歲出)ノ増加及臨時ノ需用ニ充用スヘキ支出(臨時歲出)ハ法律上辨濟ノ義務アルキ若クハ行政長官ノ見込ニテ其支出ノ停廢ハ行政ノ活動ヲ妨ケ又ハ重用ナル國益ヲ損スルノ恐アリト爲スキニ限り支拂ヲ命令スルコトヲ得ヘシト云フニ在リ而テ下院ニ在テハ當時既ニ政府ノ意見ニ抗論シ尋テ千八百六十二年十月七日即チ憲法爭議ノ始メニ至リ遂ニ斷然其意見ヲ表ハシテ曰ク若シ政府ニシテ下院ガ確定且明白ニ廢除ノ決議ヲ爲シタル費目ヲ支出スルコトアラハ是レ則チ違憲ノ處置ニ出テタルモノナリト(原註千八百六十二年下院印刷物第五卷第百七十三號一頁及千八百六十二年速記録第八卷千六百十頁)之ニ次テ政府ハ千八百五十年十二月十六日ノ内閣決議ノ主旨ヲ取消スコトヲ明言シタリト雖(原註千八百六十六年乃至六十七年下院速記録第三卷千六百七十七頁及附錄第三卷七百四十頁)爾後ニ向ヒ政府ノ執ルヘキ詳細ノ意見ハ終ニ之ヲ明示セサリシナリ

蓋シ所謂國會ノ歲出承認權否寧ロ衆議院ノ歲出承認權ハ李國ノ歴史ニ於テ未タ曾テ其例ナカリシ所ナリ李國憲法カ所謂歲出承認權ナルモノヲ知ラサルハ恰モ猶ホ李國憲法ニハ共和政体ノ大統領若クハ之ニ類スル制度ナキト一般ナリ何ノ異ムコトカ之アラン且夫憲法第九十九條ハ豫算ハ如何ナル手續ニ依テ成立スヘキヤヲ規定スヘキモノニシテ即チ其規定ニ依レハ豫算ハ法律ニ依テ定メラル、モノナリ別言スレハ國王ガ兩議院ノ協賛ヲ以テ發布スヘキ命令ニ依テ定メラル、モノナリ故ニ豫算ヲ以テ國家ノ歲出ニ對スル法律上ノ基礎ナリト假定スルモ——國會ハ何事ヲモ承認シ得ルモノニアラス——國會ノ承認アルカ故ニ歲出ヲ爲シ得ルニアラスシテ而シテ國王カ憲法上ノ手續即チ兩議院ノ協賛ヲ以テ國王ニ隸屬スル官廳ニ與ヘタル承認ニ依リ始メテ其歲出ヲ爲スヲ得ルナリ

元來憲法ハ支出豫算ノ本体ヲ規定セス然ルニ憲法カ支出豫算ノ何物タルヲ明言セサルニモ拘ラス動モスレハ豫算ヲ以テ一切ノ歲出ニ對スル法律

上ノ基礎ト爲スモノアリ（ホン、マルチッツ氏ツタルシ）氏「ヘーチル」氏此說ニ從フキハ豫算ハ歲出ニ關シ羈束力ヲ有スル法則ニシテ若シ豫算ニ基カスシテ支出スルコトアレハ其支出ハ總テ違法ノモノトナラサルヲ得ス然則論者ハ故ヲニ憲法抵觸ノ結果ヲ惹起サント欲スルモノニアラスシテ何ソヤ夫レ國家カ發布シタル法律ハ之ヲ執行スルカ爲メ必ス繼續セル國家歲出ノ必要ヲ惹起サ、ルハナシ凡ソ法律ハ其何事ニ關スルモノタルヲ問ハス其執行ニ要スル費用ノ支途ヲ得テ始メテ其効力ヲ有スルナリ而テ其法律タルヤ國王及兩議院ノ合意アルニアラサルヨリハ決シテ之ヲ變更若クハ廢止スヘカラサルモノナルニ今若シ國王及兩議院ノ其一カ他ノ二機關ノ意見ニ反對シ漫ニ豫算ノ歲出科目ヲ抹殺シ以テ某法律ノ効力ヲ消滅セシメシキハ則チ如何法律ヲ變更廢止スルニハ法律ヲ以テスヘシ即チ國王及兩議院ノ合意ヲ以テスヘシト云ヘル憲法ノ大則ヲ破リタルモノトナラン是固ヨリ憲法ノ精神ニアラスト雖若シ豫算ヲ以テ歲出ニ對スル法

律上ノ基礎ト爲ス以上ハ此ノ如キ憲法抵觸ハ數ノ免レサル所タリ又彼ノ
 豫算ヲ以テ行政ヲ爲スニ必要ナル委任ト爲シ「ホン、レンネ」氏「アルント」
 氏又ハ行政ヲ爲スニ付テノ法律上ノ要件ト爲ス「サイドレル氏」ノ説ヲ採
 ルモ其結果憲法抵觸ノ場合ヲ惹起スコトアルハ前顯ノ論旨ト異ル所ナシ
 何則立法機關ノ一部ハ其欲スルカ儘ニ行政ノ委任ヲ與フルコトヲ拒ミ又
 ハ法律上ノ要件ヲ附スルコトヲ肯セスシテ以テ現行法律ノ執行ヲ阻碍ス
 ルヲ得ヘケレハナリ且論者ヨ論者ニ問フヘキモノアリ論者ノ説ク所ハ憲
 法第何條ニ規定セルヤ凡行政官廳ハ一般ニ其職權ノ定マリタルモノアル
 ニ猶ホ又法律執行ノ爲メニ毎年新ナル委任ヲ要スヘキヤ則チ其嘗テ定マ
 リタル職權ハ未タ職權ノ實アラサルカ
 且夫憲法ハ歲出ヲ豫算ニ掲載スルノ理由ヲ明言セスシテ唯舊來ノ豫算法
 例ニ依ルノ意ヲ示セリ然而舊來ノ豫算法例タルヤ則チ前文ニ掲ケタル千
 八百二十四年十二月十六日ノ會計検査院訓令第二十六條ニ規定スル所ニ

シテ該訓令ノ規定ニ據レハ歲出豫算ノ性質ハ官廳ノ支辨シ得ヘキ金額ニ
 對シ其官廳ニ與フル支拂命令タルニ外ナラス而テ歲入増加ノ爲メニ避ク
 ヘカラサル歲出ノ増加ヲ來シ且歲出ノ増加額ハ歲入ノ増加額ヲ以テ相填
 補シ得ル場合ニ限り最高級行政官廳ハ其行政ノ常態ニ於テ豫算歲出額ニ
 付其項目ノ百分五迄ノ増額ヲ承認スルコトヲ得ルナリ是レ豫算カ支拂命
 令ノ性質ヲ有スルヲ以テ然ルナリ然リト雖其他ノ豫算超過ノ歲出ト雖決
 シテ始ヨリ無効ノモノニアラス畢竟其責ニ當ルモノ、過失ニ歸スルノミ
 是レ右訓令ノ大意ニシテ今日ト雖歲出豫算ノ性質ハ依然トシテ異ル所ア
 ラサルナリ則チ豫算ハ國家ノ歲出ニ對スル法律上ノ基礎ニアラスシテ如
 何ナル費目ヲ如何ナル金額ヲ以テ支出スヘキヤニ付國家機關ニ與フル支
 拂命令タルニ過キス此支拂命令ハ或ハ獨立無條件ニシテ自ラ法規タルノ
 性質ヲ有スルモノアリ或ハ他ノ條件ヲ適用スルカ爲メノ適用命令ノ性質
 ヲ有スルモノアリテ其種類ヲ一ニセスト雖要スルニ唯官廳内部ニ行ハル

、ニ止マリ臣民ト國家トノ關係ニ就テハ何ノ交渉スル所モアラサルナリ
 此ノ如ク歲出豫算ノ説明ヲ爲シ來ルキハ現行法ト豫算ト相抵觸スルコトハ
 之ヲ求ムルモ終ニ之ヲ得サルヘシ國家ハ現行法ノ規定ニ從ヒ其種歲出ヲ
 爲スヘキ義務ヲ有スルコトアルモ其歲出ハ未タ豫算ニ掲載セラレサルコ
 トアリ豫算ニ掲載セラレサルモ國家ノ之ヲ支出スヘキ義務ハ現行法上依
 然タルナリ抑モ國家ハ何時ニテモ一般ニ若クハ其場合ニ限り合式ノ手續
 即チ通常、法律ヲ以テ現行法ヲ變更シ得ルモノニシテ豫算モ亦法律ナル
 ヲ以テ法律上國家ノ有スル歲出義務ノ履行ヲ豫算法律ニ依テ停止シ又法
 律ニ依テ現存セル國家ノ設置ヲ豫算法律ニ依テ廢止スルコト蓋シ爲シ得
 ヘカラサルニアラサルニ似タリト雖(原註此事タルヤ政略上特ニ貴族院
 職權ヲ侵害スルノ危險アリ何則貴族院ノ財政法律及豫算法律ニ於ケルヤ
 其全体ヲ可否決スルヲ得ルモノニシテ之ヲ修正スルヲ得サレバナリ、「ボ
 ルンハック」學國國法論第一卷四百九十七頁四百九十八頁ヲ參照スヘシ、故

ニ貴族院ハ豫算法律若クハ財政法律ニ附帶セシムルニ現行法改正ノ法律
 案ヲ以テスヘカラサルコトヲ要求スルノ權利アリ「ラバン」氏豫算法論
 第十七頁以下ヲ閱スルニ同氏モ亦此意見ナリ(顧テ現行法ヲ改廢スルニ
 ハ立法機關三部分ノ積極的共贊ヲ要スルナリ然ルニ豫算ノ討議ニ方リテ
 ヤ單純ナル過誤ヲ發見シテ訂正スル場合ノ外議會ハ敢テ政府ノ意見ヲ問
 ハス若クハ明ニ政府ノ意見ニ背テ國家ニ支拂義務アル歲出ヲ削除シ恣ニ
 其科目ヲ抹殺スルヲ以テ通例トナス故ニ豫算ハ唯兩議院ノミノ共議決定
 ニ依リ法律タルノ形式ヲ以テ公布セラル、モノニシテ而テ法律上國家ノ
 履行スヘキ義務ヲ停止シ又ハ法律ニ依テ現存セル國家ノ設置ヲ廢止スル
 爲メニ要スル立法機關三部分ノ合意共贊ハ未タ始メヨリ具足セサルナリ
 且豫算法律ハ固ヨリ官廳以外ノ人ニ適用スヘキ羈束的法則ニアラス羈束
 的法則ヲ豫算法律ニ混入スルハ決シテ立法者ノ本意ニアラス然ルニ強テ
 豫算法律ヲ以テ現行法律ヲ改廢セント欲スルハ立法一部分ノ單獨ナル決

議ヲ以テ爲シ得ヘキ歳出削除即チ消極的ノ發意ニ依テ翻テ夫ノ立法三部
分ノ共賛即チ積極的合意ヲ要スル行爲ヲ斷行セント企ツルモノナリ歳出
科目ノ削減ヲ以テ現行法ノ改廢ヲ爲スハ誰カ之ヲ許サンヤ
今夫豫算ニ依テ官廳ニ與ヘタル支拂命令ト現行法ト相抵觸スル場合亦之
ナキニアラサルヘシ官廳ハ豫算ノ支拂ヲ命令スルモノナキヲ以テ某種歳
出ヲ爲ス能ハスト雖之カ支拂ヲ受クヘキ債權者ハ顧テ司法裁判ヲ受クヘ
キ權利ヲ保明セラレタル上ハ該官廳ヲ相手取りテ出訴スルコトヲ得ヘシ
然而官廳ハ縱令裁判所ノ判決ヲ受クルモ支拂命令ヲ得サル間ハ得テ債權
ノ請求ヲ充タス能ハス遂ニ債權者ヲシテ官廳ニ對スル強制執行ヲ申請ス
ルノ已ムヲ得サルニ至ラシムヘキナリ此ノ如キ不都合ハ實際固ヨリ之ア
ルヘカラスト雖現行法ノ効力ヲ本據トシテ極論スルハ數理ニ於テ必ス
免ルヘカラサル所タリ蓋シ民法上ノ理由ニ依リテ國家ノ義務ニ屬シ若ク
ハ法律ニ依テ現存セル國家設置ノ維持ニ必要ナル歳出ハ實ニ現行法施行

ノ結果トシテ之カ支出ヲ要スルモノニシテ現行法ト分離スヘカラサルモ
ノトス凡ソ現行勅令ヲ變更スルニハ單獨ナル國王ノ意思ニ依ラサルヘカ
ラス現行法律ヲ變更スルニハ兩議院ノ協賛ヲ得タル國王ノ意思ニ依ラサ
ルヘカラス決シテ兩議院若クハ一議院ノ決議ノミヲ以テ足レリトナサ
ス然ルニ若シ議會カ政府ノ明示同意ヲ得スシテ濫ニ現行法ノ施行ト分離
スヘカラサル費目ヲ豫算ヨリ削除スルコトアラハ如何是則議會カ其宜シ
ク遵由スヘキ法律ヲ蹂躪シテ違法且無効ノ議決ヲ爲シタルモノト謂ハサ
ルヲ得ス此場合ニ於テハ豫算ニ依テ官廳ニ與ヘタル仕拂訓令ハ現行法ト
相抵觸スト雖政府ハ必シモ訓令ニ從フヲ要セス現行法ノカハ常ニ訓令ノ
力ニ先ツコトヲ忘ルヘカラサルナリ之ヲ換言スレハ縱令豫算ニ掲載セラ
レサルモ法律上必要ナル歳出ハ必ス之ヲ支出セサルヲ得サルナリ唯會計
監督ヲ受クルニ至テ政府ハ其歳出カ眞ニ法律上ノ必要ニ出テタルコト且
支出シタル金額カ眞ニ其必要ニ應シタルモノナルコトヲ證明スヘキノミ

而テ如何ナル種類ノモノカ此種歳出ニ屬スヘキヤハ則チ實際ノ問題ニシテ豫メ概論スヘキニ非ス但所謂法律上ノ必要トハ獨リ債權者カ民事ノ訴權ヲ有スルモノヲ謂フニアラス之ヲ例スレハ獨リ司法官吏行政官吏ノ俸給支拂ニ類スルモノノミニアラシテ經常修繕費、廳費ノ如キモ亦此部類ニ屬スルナリ

豫算超過ノ歳出ハ憲法第一百四條ニ依リ後日議會ノ承認ヲ求ムルヲ要スルモノトス而テ歳入豫算ハ殆ト法律上ノ必要ナキモノナルヲ以テ歳入ノ事後承認ナルモノナシ事後承認ノ規定ハ歳出ニ關シテ之ヲ設クルノミ抑モ事後承認ノ目的タルヤ元來議會ノ協賛ヲ要スヘキ國家行爲ヲ偶マ政府單獨ノ意思ヲ以テ遂行シタルカ爲メ後日ニ至リテ其欠典ヲ補完スルニ在リ故ニ事後ノ承認ハ以テ事前ノ協賛ニ代フヘキモノニシテ事後承認ヲ經タル國家行爲ハ事前議會ノ協賛ヲ經タルモノト同一ノ効力ヲ有スルナリ豫算超過ノ場合ニ付テ之ヲ考フルモ事後承認ヲ得タル上ハ會計監督ヲ受ク

ルニ至リテ其超過額ハ始メヨリ議會協賛ヲ經タル豫算ニ依リテ支出シタル歳出ト同一ノモノトナル豫算超過ノ歳出ニ付法律上事後承認ヲ要スルノ理由ハ唯此ニ在リテ他ニ在ラサルナリ然而歳出豫算ノ各科目ハ官廳ヲシテ必ス其金額ヲ支出セシムヘキ無限ノ命令ニアラスシテ畢竟其金額ヲ支出シ得ルノ允任ニ過キス又豫算ニ適合シタル歳出ニ付テモ會計監督ニ方リテハ或ハ某科目ノ猶節省シ得ヘキモノアラサリシヤヲ審査スルコト學國ノ舊慣ナリ此ニ因テ之ヲ考フルニ事後承認ヲ得タル歳出モ亦豫算ニ依リタル歳出ト等シク當該官吏ノ義務ニ違背シタル支出ナキヤヲ審査シ若シ之アルニ於テハ此ヲ以テ官吏ノ過失ト爲シ其制裁トシテ其金額ヲ沒收スルコトヲ妨ケサルナリ(原註千八百八十五年四月九日大審院民事判決録第十三卷二百五十八頁以下ハ本論ト其主旨ヲ同フスルモノニシテ其要領ハ責任者ナル當該官吏ノ不法行爲ニ依テ生シタル豫算超過支出ニ對スル事後承認ハ國務大臣ニ追認ニ與フルモノタルニ相違ナシト雖當該官

吏ノ賠償義務ヲ免除スル限ニ在ラスト云フニ在リ然ルニ「デ、ヨンゲ」氏ハ
アルヒーフ、フ、ニール、エツフ、エントリツ、ヘス、レヒト
 公法論集第二卷二百九十七頁以下ニ於テ右判決ヲ攻撃シ謬戾
 ノ議論ヲ爲セリ其要領ハ豫算法律ハ官吏ニ與フル委任狀ナリ委任ノ範圍
 内ニテ爲シタル行爲ニ付テハ委任者ニ對シテ責ヲ負フヘキニアラス故意
 ニ豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモハ其行爲ハ過失タルニ相違ナシト雖既ニ
 豫算追認ニ依テ委任ノ曠缺ヲ補完シタル上ハ其行爲ハ罪トナラス復タ處
 罰ヲ受クヘキニアラスト云フニ在リ此議論タルヤ民法刑法ノ原則ヲ援引
 シテ妄リニ行政法ノ斷案ト爲サント欲スルモノニシテ其採ルニ足ラサル
 ヤ論ヲ須タス

抑豫算超過トハ果シテ如何ナル事ソ單ニ豫算ノ各款各項ヲ超過セル支出
 ヲ稱スルカ將タ獨リ款項ノミナラス豫算法律ニ理由書トシテ添附シ議會
 ノ審査ヲ受ケタル特別豫算及證明書ノ分科ニ背キタル支出ヲモ併稱スル
 カ此疑問ハ近時ニ至ル迄政府議院間ノ爭論セル所ナリシカ千八百七十二

年三月二十七日ノ會計検査院組織及權限ニ關スル法律第十九條(原註千
 八百七十二年法令全書二百七十八頁)ノ規定ニ依テ始メテ之ヲ前顯後說
 ニ決定スルコトヲ得タリ其規定ニ云憲法第四百四條ノ豫算超過歲出ハ憲法
 第九十九條ノ規定ニ從テ定メタル豫算ノ各款各項ノ超過額及議會ノ承認
 ヲ經タル特別豫算各項ニシテ特ニ流用ヲ許スノ明文ナキ者並ニ否ラサル
 モ一項増出ノ不足額ヲ他項減出ノ剩餘額ニテ補充シ能ハサルモノニ關シ
 テ生シタル違豫算額支出ヲ總稱ス、此法律ニ稱スル特別豫算ノ項ハ議會
 カ各別ニ議決シテ豫算ニ列載シタル各科目ナリ、豫算超過及豫算外歲出
 ノ證明ハ翌年議會ニ提出シテ事後ノ承認ヲ受クヘシト

以上豫算本体ニ付縷陳シタル所ヲ括言スレハ大凡左ノ如クナルヘシ曰豫
 算ハ國法上ノ必要ニ依テ之ヲ定ムルニアラスシテ國家財政上ノ便宜ノ爲
 メ之ヲ作ルニ過キス豫算ハ次年度ニ於ケル一切ノ歲入歲出ヲ豫定發表ス
 ルモノナリト雖之カ爲メ歲入歲出ニ對スル法律上ノ基礎タルニアラス要

スルニ法律上ヨリ觀察スルハ豫算ハ之ヲ有名無實ノモノト稱スルモ決シテ過言ニアラス且歳出豫算ニ付テハ現行法ニ抵触セサルコトヲ以テ要件ト爲ス而テ此要件ヲ備フル歳出豫算ニ限り官廳ヲシテ支出シ得ヘカラシメ又支出セサルヲ得サラシムヘキ支拂命令タルコトヲ得官廳カ適法ナル歳出豫算ノ指定ニ背キテ負擔シタル支拂義務又ハ既ニ爲シタル支拂ハ之ヲ無効トスル限ニアラスト雖當該國家機關ハ之カ責任ヲ引受ケサルヲ得ス

豫算不成立

國家歳計ノ豫算ハ毎年法律ヲ以テ之レヲ定ムルコトハ憲法第九十九條ニ規定スル所ナリ而シテ豫算ハ一切ノ歳入歳出ヲ豫定算出セルモノナルカ故ニ豫算法律ハ必ラス該會計年度ニ入ルニ先テ之ヲ制定セサルヲ得ス若シ豫算カ會計年度ニ入ルモ未タ調製セラレス若クハ終ニ調製シ得ヘカラ

ザルノ場合ニ於テハ國家ハ違憲ノ状態ニ陥リタルモノト謂ハサルヲ得ス然モ這般違憲ハ憲法カ其規定ニ依リテ當然起リ得ヘカラシメタルモノトス即チ憲法ノ規定ニ依レハ豫算ハ毎年之ヲ調製セサルヲ得サルト同時ニ之ヲ調製スルハ立法ノ手續ニ依ラサルヲ得ス立法ノ手續ニ依ルトキハ國王及議會ノ決定ハ各自全ク自由ノ意思ニ從ヒ何者ノ掣肘ヲモ受クヘキモノニアラサルヲ以テ双方合意ノ成ラサルコトアルハ怪ムニ足ラス夫レ然リ一方ニ於テハ毎年豫算ヲ定ムヘシト命令シナカラ他方ニ於テハ國王及議會ノ自由意思カ偶マ相投合スル場合ニ於テ豫算ノ成立スヘキコトヲ定ム憲法カ自ラ違憲場合ノ起リ得ヘキ規定ヲ設ケタリト謂フモ豈ニ刻論ナランヤ例ハ内閣カ豫算案調製ノ期ヲ誤リテ議會開議ニ附スルニ由ナカラシメタルカ又例ハ議會カ正當ノ理由ナクシテ議事ヲ停滯セシメタルカノ場合ニ於テハ豫算不成立即チ違憲ハ固ヨリ責ノ歸スヘキ所アリト雖モ事情ニヨリテハ責ノ歸スヘキ所ナクシテ空シク違憲ノ變態ヲ呈スルコトア

リ凡テ法律ノ成立ニハ國王及ヒ兩議院ノ合意ヲ要ス豫算モ亦タ法律ト名ケラレタル以上ハ國王及兩議院即立法部三要素ハ各自自由意思ヲ有シ決シテ強制シテ他ノ意思ニ服從セシムヘキモノニアラサルヲ以テ意思ノ未タ相合ハサル間ハ即チ豫算ハ全ク成立セサルヘク或ハ少クトモ適當ノ時期ニ成立セサルヘシ然トモ何人モ過失ナシ何人ヲモ責ムヘカラサルナリト抑モ此場合ニ處スル如何スヘキヤ此問題ハ決シテ等閑ニ付スヘキニアラス理論上ヨリ又實際上ヨリ此問題ヲ解カント試ミタルモノ既ニ少ナカラサルナリ

曰ク國王及兩院其意見ヲ異ニスルキハ重キヲ衆議院ノ意見ニ置カサルヲ得ス曰ク意見相抵觸スルノ場合ニ於テ國王ハ衆議院ヲ解散シ若クハ内閣ヲ交迭セシムヘシ貴族院ニ於テハ勅任議員ヲ増加シテ政府ノ勢力ヲ助クヘシ曰ク斯クスヘシ曰ク斯クスヘシ(ホン、レン子)トハ論者ノ嘖々シタル所ナリト雖モ今姑ラク此等區々ノ議論ニ拘ハル所ナク學者ノ著書ニ就キ

豫算不成立ノ問題ニ關スル論旨ヲ大別スレハ大凡ニ種々爲メ得ハシ即チ其第一種論者ハ豫算ノ不成立ヲ以テ實際ニ妨ケナシト論スルモノモシテ其理由ノ要領ハ法律ニ基ケル歳入ハ豫算オシト雖モ之レヲ收得スルコトヲ得法律上若クハ實際上止ムヲ得サル必要ノ歳出ハ豫算ナシト雖モ之レヲ支拂フコトヲ得唯夫レ會計上ノ監督ヲ受クルニ際シテ政府ハ各種歳出ノ必要ニ出テシコトヲ證明セサルヘカラサルヲ以テ此一事コソ政府タルモノ、地位ヲシテ稍困難ニ遭遇セシメタルモノト謂フヘケレ要スルニ豫算成立セサレハトテ國家ハ其害ヲ受クヘキモノニアラヌト云フニアリ是レ「グナイスト」氏ノ辨明セシ所ニシテ氏ニ次テ「ラバント」氏ハ特ニ法理上ヨリ之レヲ詳論シ(原註ラバント氏ハ學國豫算法ヲ論スルニ方其著テ前年度豫算ヲ施行スヘキ意見ヲ有シタルコトアレ其後著書ニ依リテ舊時ノ意見ハ自カラ消滅セルモノ、如シ)「ヘルマン、シユルチ」氏「ゲヨルグ、マイエル」氏「プラツァク」氏之ヲ祖述セリ但「ヘルマン、シユルチ」

エ「氏ハ自ラ「ラバント」氏ト其意見ヲ異ニスル所アリテ豫算不成立ヲ以テ非常緊急ノ變態トナシ決シテ常態ニアラスト爲セリ又第二種ノ論者ハ這般問題ヲ解クコトヲカメスシテ豫算不成立ヲ以テ法律論ヲ籍リテ決定スヘカラサル政治上ノ恐慌トナセリ其論旨ノ要領ハ豫算ハ如何ナル場合アルモ必ラス成立セサルベカラサルモノナルニ若シ之レカ成立ヲ見ル能ハサルニ於テハ既ニ是レ違犯ナリ違犯ハ法律論ノ得テ醫治スヘキモノニアラスト云フニアリ而シテ「ホン、マルチツツ」氏「ツヨルン」氏「モリ子ク」氏「ギールケ」氏ハ之レヲ明言シ「ヘー子」氏ハ未タ嘗テ明言スルニ至ラスト雖モ豫算成立ニ關スル法律上ノ結果ニ付一言セサルヲ以テ見ルハ默々裡ニ此論ヲ執レルモノト斷定セサルヲ得ス

以上ハ理論ノ岐分セル所ヲ示シタルモノナリ若夫レ實際ニ於テモ學國ニテハ夙ニ豫算不成立ノ問題起リ夫ノ豫算不成立ヲ以テ法律論ヲ決シ能ハサル政治上ノ恐慌トナシタル一派論者ノ意見ハ適々實際ニ相反シ千八百

五十年以後ニハ會計年度ニ入ルニ先テ豫算ノ成立ヲ見ル能ハサルハ有様殆シト毎年ノ狀態タリシナリ國家ノ生存ニ於テ常ニ有リ得ル場合ニ對シテ爭テカ法律ノ規定ヲ欠キ法律上ノ秩序ニ欠典アラシムルヲ得ン既ニ憲法議定ノ當時ニ於テモ眼中此場合ヲ豫見スルモノアリ從テ之ニ處スヘキノ方ヲ畫策シ即チ衆議院ニ於テハ豫算カ例期ニ未タ成立セサルコトアルモ四ヶ月以内ハ前年度豫算ノ効力ヲ存有セシメント欲シ又貴族院ニ於テハ十二ヶ月以内ハ其効力ヲ存有セシムヘシト決議シ各其意見ヲ議會ニ提出シタルコトアリ(原註「ホン、レン子」氏學國憲法第九十九條及ヒ第百條論參照)然ルニ合意成ラスシテ其議ハ終ニ纏マルコト能ハス其後千八百六十一年ニ至リ政府モ亦之レニ類シタル案ヲ提出シタルニ是レ亦行ハレザリシナリ(原註千八百六十一年衆議院速記録五百八十二頁參照)千八百六十二年以後憲法爭論ノ盛ナリシ際ニ方リテハ如何シテ豫算不成立ノ場合ニ處スヘキヤノ問題頗ル囂々互ヒニ其意見ヲ異ニシ衆議院ハ衆議院ノ

議決シタル儘貴族院之ヲ可決シ國王之レヲ裁可スヘシト謂フヲ以テ其意
見ト爲セリ抑モ無豫算財政ハ違憲ナルニ相違ナシ之レヲ違憲トスルハ議
論ノ正シキモノナリト雖モ國王及ヒ貴族院ヲシテ衆議院ノ議決ニ從ハシ
ムヘシト謂フニ至テハ則チ是レ歲出承認ノ全權獨リ衆議院ニ在リト爲セ
ル陳腐論ヲ墨守セルモノト評セサルヲ得ス此ノ如キハ豫算ハ法律ニ依テ
定ムヘシ而シテ其法律ハ獨リ衆議院ノ意見ニ成ルヘキモノニアラサルコ
トヲ忘レタルモノナリ衆議院ノ意見ハ豈ニ之ヲ謬論ト謂ハサルヲ得シヤ
之ニ反シテ政府ノ意見ニハ豫算不成立問題ニ付テハ斷シテ憲法ノ規定ニ
欠典アリ此欠典ヲ補ハント欲セハ豫算不成立ヲ場合ニ於テハ國家ガ獨裁
政治ノ原狀ニ復シタルモノト視ルカ若クハ前年度ノ豫算ヲ次年度ニ施行
スルカソ外他ニ方法ナカルヘシト云フニアリ然レモ此說亦服スヘカラズ
憲法成典ニハ固ヨリ欠典アルニ相違ナシト雖モ國家法律上ノ秩序ニ於テ
豈ニ欠典ノ有リ得ヘキモノナランヤ試ニ思ヘ裁判官ハ某場合ニ適用スル

キ法文オシト云フヲ口實トナシ以テ裁判ヲ當事者ニ拒ミ得ルヤ法律ノ成
文ナシト雖モ國家ニ法律上ノ秩序アル以上ハ未ダ得テ裁判官ノ適用スヘ
キ法ナシト謂フヲ得ス蓋シ公法ノ欠典ニ處スルノ方法亦此ト異ナラザ
ルナリ故ニ憲法カ明々地ニ制限ヲ加ヘサルモノニ對シテハ千八百四十七
年以前ノ獨裁王政ノ原狀ニ復シテ王權ノ無限ニ行ハルハコト固ヨリ有
得ヘカラサルコトニオラスト雖モ既ニ國家カ立法ノ手續ヲ以テ即チ議會
ノ協賛ヲ以テ其意思ヲ宣言シ明々地ニ王權ニ制限ヲ加ヘタル以上ハ縱令
其協賛シタル條規カ實際ニ行ハレサルコトアルモ直ニ其條規ヲ無視シテ
國王宜ク其命令權ニ因テ獨斷スヘシトハ論決スヘカラサルナリ又夫今前
年度豫算施行論モ毫モ理由ノ採ルヘキモノナシ其年度ニ對シテ一年限ノ
効力ヲ附シテ發布シタル豫算法律カ次年度ニ至リテ猶其効力ヲ有ストハ
如何ナル理由ソヤ凡ソ施行ノ時期ヲ限ラレタル法律ハ其時期ノ經過ト共
ニ當然其効力ヲ消滅スヘキハ爭フヘカラサル原則タルニ其消滅シタル法

律カ依然トシテ施行セラルヘシト云フニ至テハ無理無法ノ議論ト調ハサル得ス

蓋シ豫算ヲ不成立ノ場合ニ赴スヘキ最モ簡單ナル方法ハ法律タル効力ヲ付シタル國王ノ命令ヲ以テ豫算ヲ制定スルニアリ抑此種命令ハ法律發布ノ必要ニ迫ラレ而シテ緊急命令ヲ以テ法律ヲ補フコトヲ禁セラレサル場合ニ於テハ如何ナル時ニモ如何ナル處ニモ之レヲ發布シ得サルハナシ(原注)

ボルンハツク國法論第八十一章參照)豫算不成立ノ場合ニ於テ緊急命令ヲ發スヘカラストノ規定ナシ故ニ此點ニ付テハ緊急命令ヲ以テ豫算ヲ定ムルコト毫モ差支ナシ又緊急命令ヲ發スルニ付テハ公共ノ安寧ヲ保持シ又ハ非常ノ危急ヲ救フヲ以テ其要件ト爲スト雖モ豫算不成立ノ場合ニ於テハ此要件明ニ備ハレリト謂フコトヲ得ヘシ何則國家カ豫算ニ依テ整理セラレタル財政ヲ爲ス能ハサルニ至テハ則チ非常危急ノ秋ナレハナリ各官廳カ如何ナル支出ヲ爲シ得ヘク如何ナル支出ヲ爲シ得ヘカラサルヲ知

ラサルニ至テハ則チ非常危急ノ秋ナレハナリ國家會計ノ監督ヲ資クヘキ基礎即チ豫算ヲ欠クニ至テハ則チ非常危急ノ秋ナレハナリ又緊急命令ノ要件トシテ之ヲ發スルノ時ニ於テ議會ノ閉會セラレ居ルトヲ要スト雖モ此要件カ此場合ニ適合スルヤ否ハ全ク其時實際ノ問題ニ屬ス決シテ豫算論定スヘキ事項ニアラサルナリ之ヲ要スルニ豫算不成立ノ非常ニ應スルカ爲メ緊急命令ヲ發スルコトハ法律上毫モ差支ナシト信スルナリ而シテ豫算カ緊急命令ニ依テ定マリタルハ各官廳就中會計検査院ハ之ヲ以テ該年度財政ノ標準ト爲サルベカラス又次ノ會期ニ於テ議會カ豫算命令ニ協賛ヲ與フルコトヲ拒ムモ命令ハ唯將來ニ向テ其効力ヲ失フノミ少ナクトモ命令ノ已ニ發布セラレ議會未タ協賛ヲ拒マザリシ中間ニ於テハ命令ハ有効ニ法律トシテ行ハルヘシ國家財政ハ曾テ其基礎タル豫算ヲ缺キタルコトナシ

然ルニ千八百六十二年以後ノ憲法爭論ノ時ニ方リテ政府ハ緊急命令ノ方

法ニ由ルヲトテ知ラズ其年度ニ於テ行政ノ根基タルヘキ國家財政ノ豫算
ヲ單ニ官報ヲ以テ公布セリ然レモ豫算ハ法律ニ依テ定ムヘキコト憲法第
九十九條ノ規定ナリ單ニ官報ヲ以テ公布シタルハトテ決シテ之レガ爲メ
ニ法律タル効力ヲ生スヘキニアラス此ノ如キ財政案ヲ立ルルハ政略上殊
ニ財政上ニハ其價値ナキニアラスト雖モ國法上ニハ何レ利益モナシ之レ
アルハ猶之ナキカ如シ
抑モ豫算カ全ク成立セス若クハ適當ノ時期ニ成立セザルモ即チ換言スレ
ハ法律若クハ法律ト同等ナル命令ニ依テ定メラレサルトキ更ニ之ヲ換言
スレハ無豫算ノ状態ニ際會セル時ハ其結果ハ果シテ如何トモ是レ以下ニ
論セント欲スル所ナリ人或ハ謂ハシ豫算ハ財政ニ缺クヘカヲサレモ其大
ルニ因リ縱令豫算法律ナキニモセヨ豫算ハ必ス之ナカルヘカヲサス豫算ナ
クハ政府ハ其財政ヲ行フヘカヲサレヨ以テ豫算法律ノ之ナキモ亦ハセ
メテハ政府ノ獨斷ニテ作りタル豫算ニ頼リテ財政ヲ料理セザルヲ得ス即

チ命令若クハ行政處分ニ依リテ定メタル豫算ニ豫算法律ニ代リテ財政ノ
標準タルヲ得ヘシト實ニ然リ財政案ノ財政ニ必要ナルハ論ヲ俟サル所ナ
リト雖モ若シ夫レ國法上ニテハ政府獨斷ニテ作りタル財政案ノ有無ハ毫
モ問フ所ニアラス法律上ノ意義ニテ所謂豫算ト稱スルモノハ必ラス憲法
ニ規定シタル手續ニ從テ成立シタルモノナラサルヲ得ス法律若クハ法律
ト同等ナル命令ニ依テ定メラレタルニアラサル豫算ハ豫算ニシテ豫算ニ
アラス之アレモ國法上之ナキナク此ノ如キ豫算カ財政上如何ナル價直ア
ルニモセヨ國法上固ヨリ輕重スル所ナシ縱令實際ノ財政ハ豫算法律ニ代
フヘキ政府豫算ヲ標準トシタルニモセヨ法律上之ヲ稱シテ無豫算財政ト
調フコトヲ妨ケス否寧ロ無豫算財政トシテ之カ結果ヲ論究セラルヘカラ
サルナリ
歳入ニ關シテハ別段問題トナルヘキモノナシ歳入ニ就テハ豫算ハ法律上
必要ナシ豫算ニ掲載セラレタルト掲載セラレサルトハ歳入ヲ爲スニ於テ

問フヘキ所ニアラス從テ豫算ノ存立ト不存立トモ亦歳入輕重スルニ足ラス正當ナル一切ノ歳入ハ豫算ナシト雖モ之ヲ收得スルコトヲ得ルナリ若シ夫レ歳出ニ關シテハ此問題ヲ解クコト決シテ容易ナラス議會ヲ以テ絶對的ニ歳出承認ノ全權ヲ掌握セルモノト爲ス理論ニ依ルキハ豫算ナキ場合ニ於テ政府ハ歳入ヲ爲シ得ルモ決シテ歳出ヲ爲シ得ヘカラサルニ似タリ故ニ其結果タルヤ大凡左ノ如ナルベキカ如シ即チ歳入ハ依然トシテ國庫ニ注入シ各所ノ金庫ハ充盈シテ溢ル、ニ至ルモ政府ハ一錢ヲ支出スル能ハス軍隊ハ之ヲ解散セサルヘカラス監獄ハ之ヲ開放セサルヘカラス裁判所ハ之ヲ閉鎖セサルヘカラス官吏ノ俸給ハ其支拂ヲ停止セサルヘカラス而シテ此等國家秩序ヲ瓦解スヘキ行爲ニ對シテ其理由ヲ尋問スルモノアラハ政府ハ如何ニ之ニ答フヘキヤ蓋シ奇怪ノ答ヲ爲サ、ルヲ得サルヘシ曰ク「本年度ニ向テハ國會ノ協賛ヲ得ル能ハサリシナリ次年度ニ於テハ庶幾ハ豫算ノ成立スルコトアラント夫レ然リ然レモ仔細ニ觀察スルキ

ハ是レ未タ以テ議會ニ歳出承認權ヲ掌握セシムルノ本旨ト見ルヘカラス所謂歳出承認權ハ此ノ如キ結果ヲ惹起サシムルヲ以テ其主意ト爲スニアラス歳出承認權ヲ有スレハトテ一切ノ歳入ヲ爲シ能ハサラシムヘキモノニアラス歳出承認權ナルモノハ唯是レ政府ニ對シテ強制手段ヲ行ヒ得ルモノタルニ過キス即チ政府ヲシテ議會ノ意思ニ服從スルカ若クハ自ラ其地位ヲ引退スルカノ途ニ出テシムルモノニ過キス歳出認諾權ナルモノハ其物自ラノ目的ニアラスシテ單ニ政畧上ノ權勢手段タルニ過キス蓋シ議會カ所謂豫算權ナルモノヲ掌握スル各邦國ニ於テモ之ヲ以テ單純ナル手段トナスノ理ハ其是認スル所タラサルハナシ然而テ國國法ハ未タ始メヨリ歳出承認權ナルモノヲ知ラサルナリ孛國ニテハ豫算成立セサレハトテ政府カ其支出ヲ停止シ若クハ議會ノ意志ニ屈從セサルヲ得サルニ似タル場合ヲ生スルコトアラサルナリ

各種歳出中ニ付法律上必要ノ歳出ハ之ヲ區別セサルヘカラス法律上必要

ノ歳出ハ假令豫算ニ掲載セラレサルモ必ス之ヲ支出セサルヲ得ス則チ豫算ヲ以テ始テ支出シ得ルニアラスシテ豫算ニ關係ナク自ラ之ヲ支出シ得ルノ理由ヲ有スルナリ從テ豫算不成立ノ時ト雖モ依然トシテ其支出ヲ爲シ得ルハ論ヲ竣タサル所ナリ(原註是レ殆ト當今學者ノ通論タリ「ラバント」豫算法論「ラバント」獨乙帝國國法論三卷第百二十五章「マルクアルセン」法律全書ニ掲載セル「ラバント」氏ノ論二百十頁「グナイス」氏法律及豫算百八十三頁以下「グリユンフーツ」雜誌第一卷ニ掲載セル「ヘルマシ、シユルツエ」氏ノ論百六十九頁以下及全氏學國國法論第二卷二百十六頁以下「グリユンフーツ」雜誌ニ掲載セル「グヨルグ、マイエル」氏ノ論四十三頁以下及同氏獨逸國法論六百九頁以下ヲ參照スヘシ以上ノ論者ハ殆ト異口同音ニ説ヲ爲シテ曰ク法律上ノ現行秩序ハ豫算ノ成不成ニ拘ハラズ之ヲ維持セサルヘカラス行政ノ根基タル豫算ヲ缺ケル場合ニ於テ各官廳カ法律上必要ナル歳出ヲ支出スルハ獨リ其權利タルノミナラス實ニ其義務タルナリ但法律上ノ理由ニ基ツカサル一切ノ歳出ハ之ヲ爲スヲ得サルモノトスト)

此ノ如キ場合ハ必シモ豫算全ク不成立ナルキニアラサルモ豫算成立カ時期ニ後レタルカ爲新會計年度ノ始メニ方テ數月間豫算ヲ缺キタルキニ於テモ亦之アルナリ而シテ政府ハ其支出ヲ獨リ法律上必要ノ歳出ニノミ限リテ其他ヲ曠廢スヘカラス此ノ如クシハ國家行政ハ果シテ如何ナル状態ヲ呈スヘキヤ夫レ國家ハ法律上自然生存ニ缺クヘカラサル養料ノミヲ要求シ得ルモノナルヤ而テ此區域以外ニ於テハ其支部ナル一二機關ノ指命ニ從ハサルヲ得サルモノナルヤ此ノ如クニシテ國家ハ尙生存シ得ルモノナルヤ否ヤハ既ニ數十年前ヨリ人ノ疑問トナシタル所ナリ(原註「フリケル」氏著概六百五十七頁參照)特ニ幾年間ノ久キニ彌リテ豫算成立ヲ見ル能ハサルカ如キ場合ニ際シテハ國家歳出ヲ法律上必要ノ者ニ限ルハ決シテ爲シ能ハサル所タリ

且夫レ歳出ハ法律上豫算ヲ須テ始テ有効ナルニアラサルヲ以テ法律上必要ノ歳出ハ論ヲ待タス縦令法律上必要ノモノニ属セサル部分ト雖モ各官廳ハ此場合ニ於テ法律上有効ニ支出セサルヲ得ス唯此ノ如キ支出ヲ爲スニ於テ考案ヲ要スルハ國家ノ行政機關ハ現行法律ノ規定ニ基カス又豫算法律ノ訓示ニ從ハスシテ爲シタル歳出ニ付責任ヲ有スル者ナルヤ果シテ責任ヲ有ストスレハ如何ナル程度迄責任ヲ有スヘキヤノ一點ニアリ而テ成立セル豫算法律アリトスレハ右等支出ハ當該官吏ノ過失タラサルヲ得ス何則該官吏ハ豫算ニ掲ケタル支拂命令^{アンワイズンク}ニ背キタレハナリ官吏ニ與ヘタル訓令ニ背キタル責ヲ免レサレハナリ此場合ニ於テ官吏ハ訓令違反ヲ以テ尤ヲ被ムルナリ夫唯訓令違反ナリ之ニ責ヲ歸スルニハ必ス訓令アリタルコトヲ要ス然ルニ豫算不成立ノ場合ニ於テ固ヨリ訓令アルニアラサルヲ以テ官吏尤ムルニ訓令違反ヲ以テスヘカラス豫算ニ掲クヘキ支拂命令ヲ待タスシテ法律上ノ必要ニ出テサル支出ヲ爲シタレハトテ當該官吏

ハ決シテ過失ヲ有セサルナリ故ニ豫算ノ成立シタル時ト成立セサル時トニ於ケル各官廳ノ有様ハ恰モ上級官廳ノ訓令ヲ受ケタル時ト之ヲ受ケサル時トノ有様ニ異ナラス上級官廳ノ訓令ヲ受ケタル時ハ其訓令ヲ奉行セサルヘカラス之ヲ奉行セサル時ハ官吏タル義務ヲ破リタルモノトス之ニ反シテ上級官廳ノ訓令ヲ受ケサル時ハ何ノ訓令ヲカ奉行セン官吏タル義務ニ適ヒタル注意ヲ以テ自ラ其職務ヲ專行スヘキノミ豫算不成立ノ場合モ亦甚タ之ニ似タルアリ各官廳ハ國家ノ利益ヲ計ル爲ニハ如何ナル支出ヲ爲スヘキヤ又如何ナル支出ヲ爲スヘカラサルヤニ付自ラ之ヲ考慮シ自ラ之ヲ決定セサルベカラス然而テ當該官廳ノ責任ハ此ニ至テ大ニ其重キヲ加ヘタルモノト謂ハサルベカラス一々訓令ヲ遵奉スルハ之ヲ訓令ナクシテ自カラ決定スルニ比スレハ其易キコト全日ノ論ニアラス然レモ此レ之ヲ當該官廳ニ責ムヘカラス當該官廳ハ會計監督ヲ受クルニ方リテ歳出ノ豫算ニ符合スルコトヲ辨明スル代リニ此際唯歳出ノ實際已ムヲ得サル

ニ出テタルヲ以テ若シ豫算カ成立シタリシナレハ必スヤ之ヲ豫算ニ掲載シタルナルヘシト云フノ事實ヲ證明スルヲ以テ足レリトス
 是故ニ豫算ハ不成立ト雖モ行政ハ決シテ其秩序ヲ紊ルヘキニアラス依然舊ノ如クニ行ハルヘシ一切ノ歳入ハ舊ニ依リテ收得セラルヘシ法律上必要ナル一切ノ歳出ハ舊ニ依リテ支出セラルヘシ法律上必要ナル一切ノ歳出ハ舊ニ依リテ支出セラルヘシ法律上必要ナルモノニ屬セサルモ國家ノ利益トナルヘキ一切ノ歳出ハ舊ニ依リテ支出セラルヘシ無豫算財政ノ結果タルヤ外部ニ對シテハ何等輕重スル所モナシ唯國家機關ノ内部ニ於テ微密ニシテ却テ重要ナル部分即チ會計検査院ノ財政監督ニ付テ忽諸ニ付スヘカラサルモノアリ何則行政官廳ヲシテ其責任ヲ免カレシムヘキ豫算アラサレハナリ然レトモ之ニ處スル亦途ナキニアラス他ナシ豫算追認法律ニ賴ル即是ナリ豫算追認ハ行政官廳カ其意見ヲ以テ專行シタル支出ヲ爾後承認シテ其性質ヲ豫算ニ基キタル支出ニ變スルモノナルカ故ニ之ヲ略言スレハ行政官廳ヲシテ支拂命令ヲ須タスシテ支出シ

タル責任ヲ免レシメ且其歳出ヲシテ豫算ニ準據シテ爲シタル者タラシムルナリ其一例ヲ擧クレハ千八百六十六年學國憲法爭論ノ終リタル片前顯追認法律ヲ發布シタルヲアリ豫算ノ成立不成立ハ會計監督ニ關スル外何事ニモ影響スルモノニアラサルコトハ則チ右千八百六十六年九月十四日ノ學國豫算追認法律カ特ニ明白ニ記載シタル所ナリ即チ追認之ヲ換言スレハ行政ヲシテ豫算的會計ノ常態ニ回復セシムルコトニ付明言シテ日本年度法律ニ附録トシテ添附シタル歳入歳出表ハ千八百六十二年千八百六十三年千八百六十四年千八百六十五年ニ向ヒ毎年會計年度ニ入ルニ先チ憲法ノ規定ニ從ヒ協賛制定スヘキ歳計法律ニ代ユルモノニシテ政府ハ此ニ基テ決算ヲ爲シ以テ會計上ノ責任ヲ免ルヘシト

會計監督
レレモントホー

行政全体ニ關スル會計ヲ監督スルカ爲メ特別ナル機關ヲ設クルコトハ

「フリードリヒ、ウヰルヘルム」第一世カ千七百十四年十月二日總會計院ヲ置キタル時ヨリ既ニ之アリシナリ總會計院ノ組織ニ依レハ監督總長ヲ以テ其首座ト爲シ院ノ内部ヲ分テ軍務官有地ノ兩局ト爲ス而シテ千七百十七年六月十六日ノ布達ニ依レハ直接ニ國王ニ隸屬シテ軍務及政務ニ關スル會計ヲ計算上及事實上ニ付テ審査シタルモノトス其後財政統一ノ爲メニ總監部ヲ設置スルニ至リテ事實上ノ審査ハ總監部ノ職權ニ屬シ總會計院ハ千七百二十三年五月二日ノ勅令ヲ以テ之ヲ改メテ上等軍事及官有地會計院ト稱シ且之ヲ兩局ニ分ツコト舊ノ如シ而テ總監部ニ隸屬シテ單ニ計算上ノ審査ヲ爲スヲ以テ其職權ト爲シ其職權ノ一部ヲ褫奪サレタルノミナラス國王ニ直隸ノ地位ヲモ亦併テ之ヲ失エリ千七百四十四年三月十日ノ閣令ニ依テ兩局ヲ合併シテ一箇ノ合議體ト爲シタリト雖總監部下ニ屬スルコトハ依然タリ千七百七十年七月十三日ノ閣令及千七百八十六年十一月二日ノ閣令ニ依テ計算上ノ審査權ニ加フルニ再ヒ事實上ノ審

查權ヲ以テシ以テ舊職權ニ服ス「フリードリヒ、ウヰルヘルム」第二世ニ至テ某種會計カ例外トシテ總會計院ノ審査ヲ免ルコトヲ廢シ且總會計院ヲシテ總監部ト分離獨立シテ國王ニ直シ再ヒ財政監督總長ヲ首座トシテ大ニ其職權ヲ擴張セシム十八世紀ノ末季ニ至リカメテ總會計院ノ勢力ヲ強大ニシ以テ曩ニ總監部カ其部内ヲ職別及州別ノ數局ニ分チタル爲メ惹起シタル財政ノ割裂ヲ再ヒ統一ニ歸セシメント試ミタリ然ルニ孛國官制ヲ變更スルコトハ容易ノ業ニアラサルヲ以テ折角試ミタル總會計院擴張案ハ遂ニ之ヲ斷行スル能ハサリキ

千八百八年乃至千八百十年ハ孛國ニ於ケル諸般改革ノ際ニシテ法律ノ散布モ瀕繁ナリシカ會計檢査院ニ關シテハ却テ立法上重キヲ置カサリシナリ千八百八年十二月十六日ノ公告ニ依レハ會計檢査院ノ處務章程ニ關シテハ總テ樞密院ノ指揮ヲ受ケシメ以テ豫テ樞密院カ希望セシ所ニ合ハシム又實際ノ處務ニ付テハ直接ニ國王ニ對シテハ責任ヲ負ヒ王命ヲ待テ萬

事ヲ行ハシム尋テ千八百十年十月二十七日ノ勅令ハ會計検査院ヲシテ總理大臣ノ總轄ヲ受ケシメ且一切ノ會計及豫算並ニ一切ノ君主豫備金ヲ検査スルヲ以テ其職權ト爲シ而テ何等ノ出納モ總テ検査ヲ免ルヘカヲサラシム其後戰亂鎮定シテ國家再興スルニ及ヒ千八百十七年二月二十二日ヲ以テ會計検査院官制ニ關スル廻達ヲ發シ(原註「フホシ、カンブツ」氏年報第一卷第一章三十七頁)千八百二十四年十二月十七日ヲ以テ更ニ詳細ナル訓令ヲ發ス此訓令ハ今日ニ至ルモ猶ホ有効ニ行ハル、モノトス憲法第百四條ハ議會ニ與フルニ財政ニ對スル會計監督權ヲ以テシタリト雖議會監督ハ固ヨリ會計検査院監督ト併行シテ相戻ラサルナリ而テ憲法第百四條ハ會計検査院ノ組織權限ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケスシテ之ヲ特別法ニ讓リタルヲ以テ千八百七十二年三月二十七日更ニ法律ヲ發布シテ會計検査院ノ組織權限ヲ定ム(原註千八百七十二年法令全書二百七十八頁)即チ其規定ニ依ルルハ大畧左ノ如シ

憲法第百四條ノ規定ニ依ルルハ財政豫算ニ基キテ爲シタル會計ハ都テ會計検査院ノ検査確定ヲ受クルモノトス會計検査院ハ千八百七十二年三月二十七日ノ法律ニ依テ國王ニ直隸シテ國務大臣ニ對シ獨立セル官廳ト定メラレ國庫ノ歲入歲出、國有財産ノ購入讓與、國債ノ管理ニ關スル會計ヲ検査確定シテ財政全体ヲ監督スルヲ以テ其職掌ト爲シ院長一人検査官若干人參事官若干人ヲ以テ組織ス院長ハ内閣ノ上奏ニ依リ總理大臣ノ副署ヲ以テ國王之ヲ任命ス父子、舅甥、兄弟、配偶者ノ、兄弟ノ關係アルモノハ同時ニ會計検査院ノ列員タルコトヲ得ス會計検査院列員ハ他ノ官職ヲ兼子又ハ報酬ヲ受クヘキ業務ヲ營ミ又ハ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス會計検査院列員ノ職務罪及懲戒ノ處分ハ裁判官ニ準ス會計検査院ノ議決ハ列員ノ各數決ニ依ル重大ノ件ニ關スル討議及議決ハ合議ヲ用ニ其他ノ件ハ院長ノ指揮ヲ受ケテ各検査局之ヲ行フ検査局ハ検査官ヲ以テ局長トスルモノ多ニ居ル右ノ外會計検査院ノ處務章程ハ特別

訓令ノ規定ニ依ル(千八百七十三年法令全書四百五十八頁千八百七十三年九月二十二日ノ訓令、及之ヲ補足セル千八百七十四年法令全書二百九十四頁千八百七十四年七月二十七日ノ詔勅並ニ千八百七十七年法令全書百三十頁千八百七十七年五月十一日ノ詔勅ヲ參照スヘシ)

國家ノ會計ハ總テ會計検査院ノ検査ヲ受ケサルハナシ即チ議會ノ議定セル豫算及之ニ附屬セル特別豫算並ニ其基本タル明細書ヲ施行スルノ結果トシテ顯ハレタル就中各官廳、各官業所、國庫金ヲ出納スル各官衙ノ會計並ニ國庫ノ定額補助若クハ需用ニ應スルヲ限度トシタル不定額補助ヲ受ケタル私業者會計又ハ國家ノ擔保ヲ以テ管理セラレタル私業者ニシテ其擔保カ實際ノ負擔トナルモ其負擔ノ始マリタル時ヨリ其終ル迄ノ會計ハ悉ク會計検査院ノ監督ヲ受ケ殊ニ國有銀行ノ諸帳簿決算書等モ亦其監督ヲ受ケヘキモノトス

會計検査院ノ職掌ハ以上記載シタル所ヲ以テ官制上既ニ之ヲ盡シタルモ

ノトス然レモ憲法第一百四條ハ更ニ規定ヲ設ケテ毎年ノ歲計總決算及國債一覽表ハ政府ノ責任ヲ解免スルカ爲會計検査院ノ檢定書ヲ添附シテ之ヲ議會ニ提出スヘキコトヲ命シ議會ヲシテ會計検査院ノ補助ヲ受クルニアラサレハ其監督行爲ヲ行フ能ハサラシム而テ此規定ニ關シテハ往々論者ノ爭議ヲ惹起シタルコトアリ初メ會計検査院ハ唯計算上ノ檢定書ノミヲ議會ニ提出シタリシ處屢議會ノ申請アリタル爲メ千八百六十二年六月二十一日ノ詔勅ハ遂ニ會計検査院ニ與フルニ左ノ指令ヲ以テセリ云ク(甲)憲法第九十九條ノ手續ヲ以テ定メタル歲計豫算ノ各款各項ニ對シ如何ナル豫算超過アルヤ(乙)歲計豫算上其填補ニ充ツヘキ金額ノ記載アラサル臨時歲出アルヤ(丙)行政廳カ歲計豫算並ニ總豫算ノ説明ニ供シタル各別豫算及證明書ニ從テ爲シタル徵納、支辨、國有財産ノ取得用收費消ニ關スル方法カ法律ニ依テ定メタル歲計豫算ノ指定ニ抵觸スル所ナキヤノ數件ハ宜ク之ヲ檢定書ニ掲クヘキモノナリト(原註此詔勅ハ公布セラレ

サリシモノナリ)然而千八百七十一年三月十七日ノ法律ハ如何ナル事項
ヲ憲法第一百四條ノ精神ニ從ヒ檢定書ニ掲クヘキヤヲ更ニ確定セリ該法律
第十八條ニ依レハ會計検査院カ獨立ノ地位ニ立チ自ラ責任ヲ負擔シテ調
製スヘキ檢定書ニハ(甲)決算書ニ掲ケタル歲入額歲出額ハ會計検査院ノ
検査ヲ經タル金庫決算書ノ收入額支出額ト相符合スルヤ(乙)徵納支辨國
有財産ノ取得用收讓與ハ法律ニ依テ定メタル歲計豫算若クハ議會ノ承認
ヲ經タル特別豫算各項若クハ豫算科目ニ附屬シタル參考書若クハ歲入歲
出又ハ國有財産取得用收讓與ニ關スル法律ノ規定ニ抵觸スル所ナキヤ若
シ抵觸スル所アラハ如何ナル程度迄抵觸スルヤ殊ニ(丙)憲法第一百四條ノ
規定ニ照ラシ如何ナル豫算超過及如何ナル豫算外歲出カ未タ議會ノ承認
ヲ經サルヤノ事項ヲ掲クヘキモノトス
會計検査院ノ監督ヲ受クルニ付テノ手續ハ大凡左ノ如シ即チ政府ハ各金
庫ヨリ提出セル年度決算書ニ基キテ歲入歲出總額ヲ類集シ之ヲ歲計豫算

ノ科目ニ照合シテ決算書ヲ作ルモノトス而テ先ツ第一ニ行政各部ニ於ケ
ル特別決算ヲ立一覽表ヲ製シ金庫決算書ニ照ラシテ検査確定ヲ受クルカ
爲メ之ヲ會計検査院ニ提出シ其證明ヲ得テ更ニ歲計豫算ノ項ニ照ラシテ
總決算書ヲ作り再ヒ之ヲ會計検査院ニ提出シテ全体ノ結果ニ付總金額カ
會計検査院ノ検査ヲ經テ責任ヲ解免シタル金庫決算書ノ收入支出額ト符
合スルヤ否ヤノ検査ヲ請ヒ之カ證明書ヲ受ケ而テ後成規ニ從テ會計検査
院カ與エタル檢定書ト共ニ政府ヨリ之ヲ兩議院ニ提出シテ責任ノ解免ヲ
求ムルモノトス且先ツ之ヲ衆議院ニ提出スルヲ以テ慣例トス但決算ハ固
ヨリ財政法律案ニアラサルヲ以テ其提出ハ憲法上必シモ衆議院ヲ先ニス
ルノ要ナシト雖之ヲ先ニスルハ慣例ノ然ラシムル所ナリ兩議院決算ノ提
出ヲ受ケタルハ豫算委員會ニ附シテ之ヲ検査セシメ委員會ノ報告ヲ待
テ責任解免ヲ與フヘキヤ又ハ之ヲ拒ムヘキヤヲ議決シ之ヲ政府ニ通告ス
然而議會ノ議決ハ政府ニ對シテ政略上重大ノ關係ヲ有スレモ國法上何ノ

國債制度

現行國債制度ノ立法上ノ根據ハ近ク千八百二十年一月十七日ノ勅令ニ在
ルヲ以テ國債制度ニ付テハ必シモ昔時ニ溯リテ法律上沿革ヲ考證スルニ
及ハサルナリ該勅令ハ官有財産ノ全体ヲ以テ當時現存ノ國債ニ對スルニ
償ニ充テ且漸次償却ノ見込ヲ以テ國債豫算ヲ公布シ而テ之ト同時ニ國債
豫算ハ將來ニ向ヒ常ニ有効ナルコトヲ宣告シ併テ將來公益ノ保持若クハ
増進ノ爲新ニ國債ヲ起スヘキ必要ニ遭フルハ後來ニ開クヘキ帝國議會ノ
協賛及擔保ヲ求ムルコトヲ要スル旨規定セリ其後特別ナル國債管理ノ制
ヲ設ク千八百四十七年二月二日ノ公達^{イデット}ニ依リ前顯勅令ヲ以テ後來ニ開ク
ヘキ帝國議會ニ與エタル職權ハ轉シテ合同議會^{フエライニヒラング}ニ移リ又憲法第百三條ハ前顯勅令ノ旨趣ニ隨ヒ凡ソ國庫ニ負債ヲ爲シ又
ハ國家ノ負擔ニ歸スヘキ保證ヲ引受クルコトハ法律ヲ以テ之ヲ定メサル

ヲ得スト規定ス

右ノ外國債ヲ爲スニ付テハ帝國法律ニ依リ二箇ノ制限ヲ置カレタリ其一
ハ紙幣發行ヲ以テセル無利息國債ヲ起スコトハ帝國獨リ之ヲ爲スコトヲ
得テ各連邦國ハ之ヲ爲スノ權限ナシ但帝國法律ヲ以テ各連邦國ニ紙幣發
行ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラスト云ニ在リ其二ハ富籤ノ方法ニ依リ利
息ノ全部又ハ一部ヲ當籤者ニ博セシムルノ國債即チ賭利債^{ブルイシヤライ}ヲ起スハ必ス
帝國法律ヲ以テスヘシト云ニ在リ(原註千八百七十一年帝國法令全書二
百十頁千八百七十一年六月八日ノ法律)

抑モ國債ヲ起シ又ハ保證ヲ引受クルコトハ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヲ得
スト雖法律ハ國家ノ負フヘキ債務ヲ生スルニアラス唯是國家ノ義務ニ歸
スヘキ行爲ヲ爲スヘキコトニ付國王カ議會ノ協賛ヲ以テ當該官廳ニ與フ
ル委任タルノミ起債若クハ擔保ニ關スル法律ハ其性質財政官廳ニ與フル
委任狀ニ外ナラス財政官廳ハ其委任狀ニ依リテ國家ノ義務トナルヘキ權

利行爲ヲ爲スコトヲ得ルナリ其委任狀タルヤ國王ノ之ヲ發スルナリト雖國王ハ議會ノ協賛ヲ經スシテ之ヲ發スルコトヲ得サルモノトス蓋シ此他ニ憲法第百三條ノ精神ト見ルヘキモノアラサルナリ且委任ノ範圍タルヤ通常民法上ノ委任ト均シク之ヲ伸縮スルコト固ヨリ任意タリ而テ當該官廳カ委任ノ範圍ニ背キテ權利行爲ヲ爲スコトアラハ國家ハ之ニ對シテ責任ヲ負ハス之ニ反シテ起債若クハ擔保ニ關スル當該官廳ノ權利行爲カ委任ノ要件ヲ備フル上ハ國家ハ之カ爲ニ生スル義務ヲ負擔セサルヲ得ス前顯委任ハ法律ノ形式ヲ以テ之ヲ與フルモノトス其民法上ノ委任ト異ナルノ點ハ實ニ此ニ在リ通常ノ委任者ハ委任ヲ發スルニ方リテ現行法規ニ準由セサルヲ得スト雖國家ノ委任ハ之ヲ發スル毎ニ之ニ關スル現行法規ヲ變更シ得ルモノタリ何則國家ハ何時ニテモ現行法律ヲ變更スルノ法律ヲ設クルコトヲ得ルモノニシテ這般委任狀モ亦一箇ノ法律ナレハナリ故ニ這般委任狀ハ獨リ官廳ニ對スル訓令タルノミナラス又其場合ニ適用ス

ヘキ特別法規トナリ現行法律ニ先ツノ効力ヲ有スヘシ現行普通法ハ却テ委任特別法ノ曠缺ヲ補フニ過キサルナリ

十八世紀迄ハ公債モ亦私債ト同一ノ要件ニ服シ債權者債務者共ニ支拂通告ノ權利ヲ有シタルモノトス然レモ現時ノ國債債權者ハ通常此權利ヲ有セス國債ハ數多ノ定額ニ分チテ各別ノ契約ト爲シ之ニ對シテ無記名證券ヲ發行シ利札ヲ附シ利落ノ度毎ニ之ヲ切斷スルコトヲ得セシメ株式取引所ニ出シテ時價ヲ以テ之ヲ應募者ニ與エシム(募債時價)國家ハ何時ニテモ支拂通告ノ權利ヲ有シ漸償殺本ノ方法ヲ以テ毎年其幾分ヲ償還シ償還ヲ受クヘキ無記名證券ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム而テ債權者ハ支拂通告ノ權利ヲ有セスト雖モ其有スル無記名證券ヲ自由ニ他ニ轉移スルヲ得ルヲ以テ敢テ支拂通告ノ權利ヲ有スルニ及ハサルナリ且又現今ハ記名契約ノ國債アリ即チ千八百八十三年七月二十日ノ國債記名簿法ニ依レハ百分四利コンソリシードラシブル附固定國債ノ債權者ハ無記名證券ヲ政府ニ納附シテ國債記名簿ニ其債券

及氏名ノ登録ヲ請フコトヲ得之カ登録ヲ了シタルハ債權者確定シテ無
 記名證券ハ自ラ其効ヲ失フ
 契約ノ効力長時間ニ繼續スル固定國債ノ外ニ更ニ當座國債ト稱スルモノ
 アリ即チ豫算ニ掲ケタル支出ニ對シテハ之ニ充ツヘキ收入アリト雖若シ
 會計年度内ニ於テ支出ヲ要スル當座ニ方リ俄ニ之ニ應スヘキ收入ヲ得サ
 ルハ當座國債ヲ以テ其急ニ應スルナリ千八百六十六年九月二十八日ノ
 法律(原註千八百六十六年法令全書六百七頁)ハ大藏大臣ニ委任スルニ臨
 時ノ需用ニ應スルカ爲メ融通期限ノ短クシテ金額ノ定マリタル有利債券
 ヲ英國ニ行ハル、「エキスチエカーピル」ノ体ニ例テ假ニ發行スルコトヲ
 以テス千八百六十八年以後ノ豫算法律ハ常ニ千八百六十六年九月二十八
 日ノ法律ニ基由シテ此委任ヲ爲セリ但債券ノ發行額及償還期限ハ法律ヲ
 以テ之ヲ定メシム
 國家引受ノ保證トハ國家カ他人ノ債務ヲ擔保スルノ言ニシテ特ニ鐵道會

社カ債權者及株主ニ對シテ義務ヲ有スル利子償却及收益配當ヲ保證スル
 カ如キハ其最モ主要ナルモノナリ保證ノ範圍ハ該保證ニ關スル法律ニ定
 メタル委任ノ範圍ニ依ルヘキモノトス故ニ其委任ハ其場合ノ保證契約ニ
 關スル特別法規タリ

蓋シ國債及保證ハ其性質民法上ヲ消費貸借契約及保證契約ニ外ナラスシ
 テ其相異ナルハ唯國家カ契約當事者タルノ一點ニ在ルヲ以テ雙方權義ノ
 爭議アルニ方リテハ學國國法ノ普通原則ニ從ヒ司法裁判ヲ受クルヲ得ヘ
 キカ如ク然ルナリ然ルニ千八百二十三年九月九日ノ布令ハ債權ヲ以テセ
 ル國債ニ對シテ司法裁判ヲ許サ、ルコトヲ規定シ千八百二十三年二月
 四日ノ閣令ハ他國ノ統治ニ服セシ當時其政務ニ對シテ得タル國債債權ニ
 ハ司法裁判ヲ許サ、ルコトヲ規定セリ外國政府ノ國債ニ付テハ現時既ニ
 之ヲ論究スルノ必要ナシト雖顧テ債券ヲ以テセル國債ニ付テハ現時尙ホ
 司法裁判ヲ許サ、ルモノナルヤ否ヤハ一言ヲ費サ、ルヲ得ス(原註)ヲツ

フエンホッフ氏ハ千八百二十三年九月九日ノ布令ハ猶ホ効力ヲ存有スル旨ヲ論シ「ホン、サルウエー」氏公法論三百頁ハ之ニ反對ノ説ヲ爲ス民事訴訟法施行法律第四條ハ請求ノ事件又ハ種類ニ依リ司法裁判ヲ許シタル民事訴訟ニ付國庫又ハ公ケノ團體カ當事者タルノ理由ヲ以テ司法裁判ヲ禁スルコトヲ得サル旨規定セリト雖國債ナル者ハ其實体上通常ノ消費貸借契約ト異ナル所アリテ自ラ特種ノ權利行爲ニ屬シ該國債ニ關スル特別法規定ニ從テ成立シタルモノナルヲ以テ司法裁判ヲ許スヘキモノニアラス其之ヲ許サ、ルハ國家カ一方ノ當事者タルノ故ニアラスシテ權利行爲ノ實體上既ニ特異ノ點アルヲ以テナリ故ニ這般司法裁判ヲ禁スルノ規定ハ連邦法律ヲ以テ之ヲ設クルヲ得ヘシ千八百二十三年九月九日ノ布令ハ今日尙ホ効力ヲ有スト斷言セサルヲ得サルナリ

當座國債ノ管理ハ大藏省ノ職掌ニ屬シ固定國債ノ管理ハ千八百二十年迄ハ國シヤツミニスアリ財省之ヲ掌リシト雖千八百二十年一月十七日ノ勅令(原註千八百二

十年法令全書十二頁)ニ依テ國債管理廳ト稱スル特別管廳ヲ置テ之ヲ掌ラシム國債官廳ハ長官一人列員四人ヲ以テ組織ス其後憲法ノ發布セラレ、ニ至リ千八百五十年二月二十四日ノ國債管理廳及國債委員部組織ニ關スル法律(原註千八百五十年法令全書五十七頁)ニ依テ更ニ官制ノ改正アリ新官制ニ依ルルハ國債ハ一般ノ財政ト分離シテ特別ナル管理ニ屬セシメ國債管理廳ヲ獨立ノ官廳ト定メ其獨立ヲ妨ケサル程度ニ限リ大藏大臣ノ指揮ヲ受ケシム國債管理廳ハ長官一人列員三人ヲ以テ組織シ國王之ヲ任命ス長官ハ同時ニ大臣タルコトヲ得ス而テ廳務ヲ綜理シ屬僚ニ對シテ懲戒ヲ行ヒ屬僚任命ノ辭令ヲ發ス其他ノ事務ニ付テハ列員ト同等ノ職權ヲ有シ同様ノ責任ヲ負フ國債官理廳ハ國債償還金庫及國券監督局ヲ統轄ス國券監督局ハ國債證券ノ正本ヲ作ルヲ以テ特ニ其職掌トス

國債管理廳ハ千八百五十年二月二十四日ノ法律ニ依リテ常ニ國債委員部ノ監督ヲ受ク國債委員部ノ組織モ亦此法律ヲ以テ定ム即チ其規定ニ依ル

片ハ兩議院カ各自ニ三人宛ヲ選出シタル列員及會計検査院長ヲ以テ之ヲ組織シ各議院ノ選出ハ投票過半数ヲ用井其任期ハ三年トス若シ任期内ニ議員ヲ罷ム片ハ同時ニ國債委員ノ職ヲ罷ム但後任者ノ定マル迄ハ其職務ヲ續行ス國債委員部ハ部中ヨリ部長及部長代理者ヲ選定ス其議決ハ列員四人以上ノ出席ヲ以テ多數決ニ由ル

國債管理廳ハ法律ヲ以テ利子辨濟及元金償還ヲ委托サレタル一切ノ國家負債ヲ管理シ國債償却ニ充ツヘキ利子辨濟基金元金償還基金事業費基金及其他一切ノ受托基金及委托サルヘキ基金ヲ管理シ國債證券ノ原本正本ヲ作り之ヲ交附シ及之ヲ取戻シ又國家ノ負擔ニ歸スヘキ保證ヲ登記シ公ケナル金庫ニ受理スヘキ諸種流通證券ノ變造偽造ヲ檢斷訴追スルコトヲ掌ル

國債管理廳ハ千八百五十年二月二十四日ノ法律第六條ニ依リ(甲)法律ノ規定ニ遵ヒ利附無利附國債證券及利附證券利札ノ原本正本ヲ作り及之ヲ

交附スル事(乙)未タ認可ヲ受ケス又ハ未タ精算ヲ遂ケサル州募國債ヲ確定スル事(丙)其廳ニ托セラレタル國債ノ利息ヲ成規ニ從ヒ辨濟シ且國債償還ノ爲ニ國債償還金庫ニ托セラレタル基金ヲ減損ナク償還ニ充用スル事就中(丁)官有地賣却代金及官有地地務免除金ヲ減損ナク償還ニ充用スル事(戊)償還濟利附及無利附國債證券ノ破滅ヲ爲ス前之ヲ塗抹シ之ヲ失効セシメ之ヲ保管スル事ニ付無限ノ責任ヲ有ス其他ノ件ニ付テハ大藏大臣ノ指揮命令ヲ受ケ從テ其責任モ亦大藏大臣ニ歸ス
國債委員部ハ國債元利金ノ辨償ニ充ツヘキ基金ニ付テノ國債償還金庫ノ月報書年報書並ニ國券監督局ノ月報書年報書ヲ國債管理廳ヨリ送附ヲ受ケ又必要ノ時機ヲ見テ少ナクトモ半年間ニ一回償還金庫及國募監督局ニ對スル臨時検査ヲ行フ國債委員部ハ國債ノ現狀、利子辨濟、元金償却並ニ管理廳ニ托セラレタル基金ノ管理ニ付管理廳ヨリ説明ヲ求メ且其意見ヲ管理廳ニ報告スルコトヲ得

憲法第一百四條ノ規定ニ依レハ各年歲計ノ總決算及國債一覽表ハ會計検査院ノ證明書ヲ添テ政府責任ノ解免ヲ求ムルカ爲之ヲ兩議院ニ提出スルモノトス而テ國債一覽表提出ノ手續タルヤ千八百五十年二月二十四日ノ法律ニ依レハ國債委員部ハ毎年例期ノ議會開會ニ方リ國債管理ノ監督ニ付既往一年間部務ノ經過及結果ヲ議會ニ報道スルモノトス國債償還金庫ノ決算ハ會計検査院ノ検査確定ヲ經テ之ヲ國債委員部ニ送達シ國債委員部ハ之ニ其報告書ヲ添テ議會ニ出ス議會之ヲ受ケテ兩院各別ニ責任解免ヲ與フヘキヤ否ヲ議シ若シ責任解免ヲ與フヘキコトニ決定スルトキハ議長ハ其決議ヲ文書ニ認メテ責任解免ノ證書ニ供ス

豫算法及會計監督畢

明治二十五年一月六日印刷并出版

定價金貳拾錢

內閣記錄局藏版

發兌人

熊田宜遜

神田區松下町十三番地

柳原新一郎

神田區裏神保町一雷地

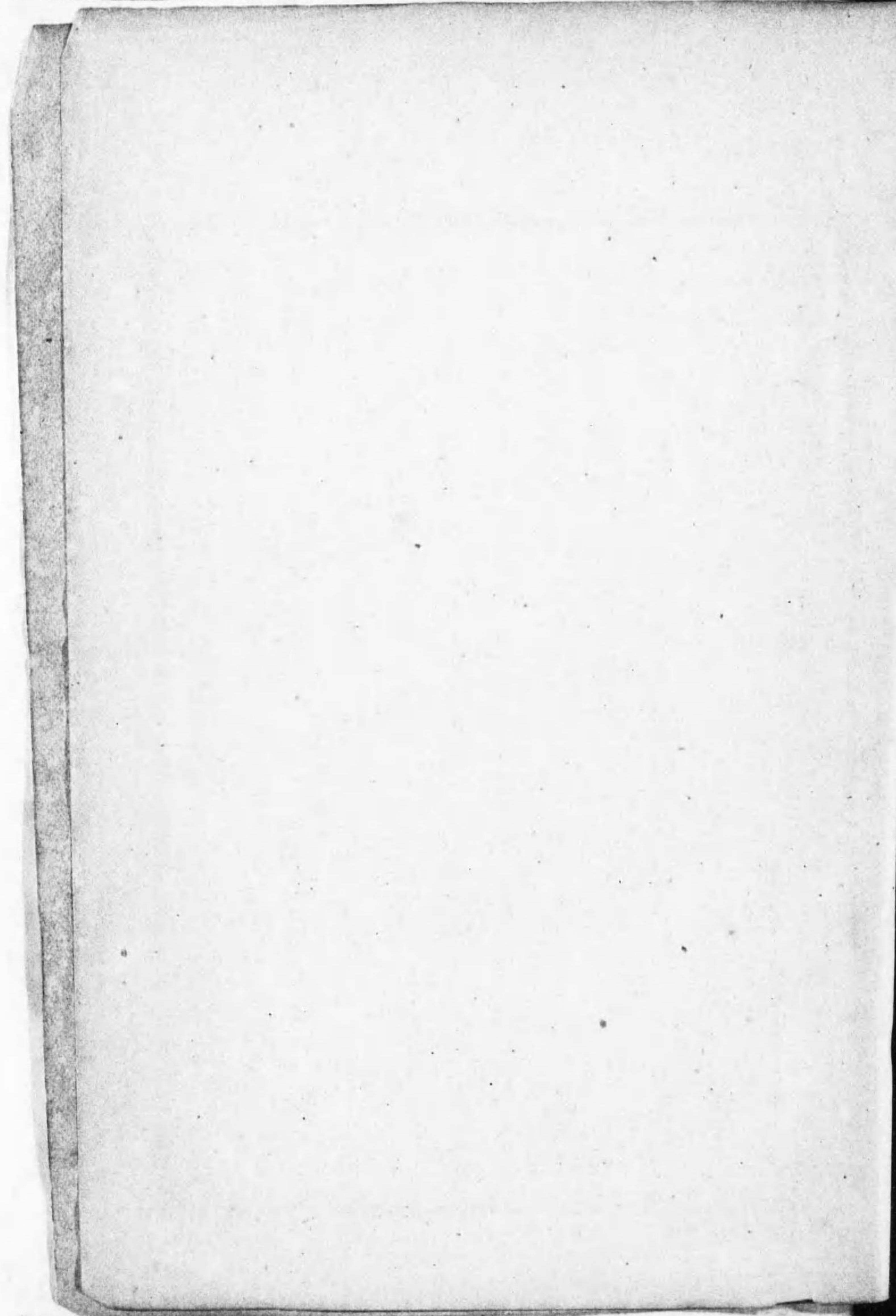
發賣所

敬業社

神田區裏神保町一雷地

熊田活版所

神田區松下町十三番地



明倫彙編 家範典 卷一百一十五

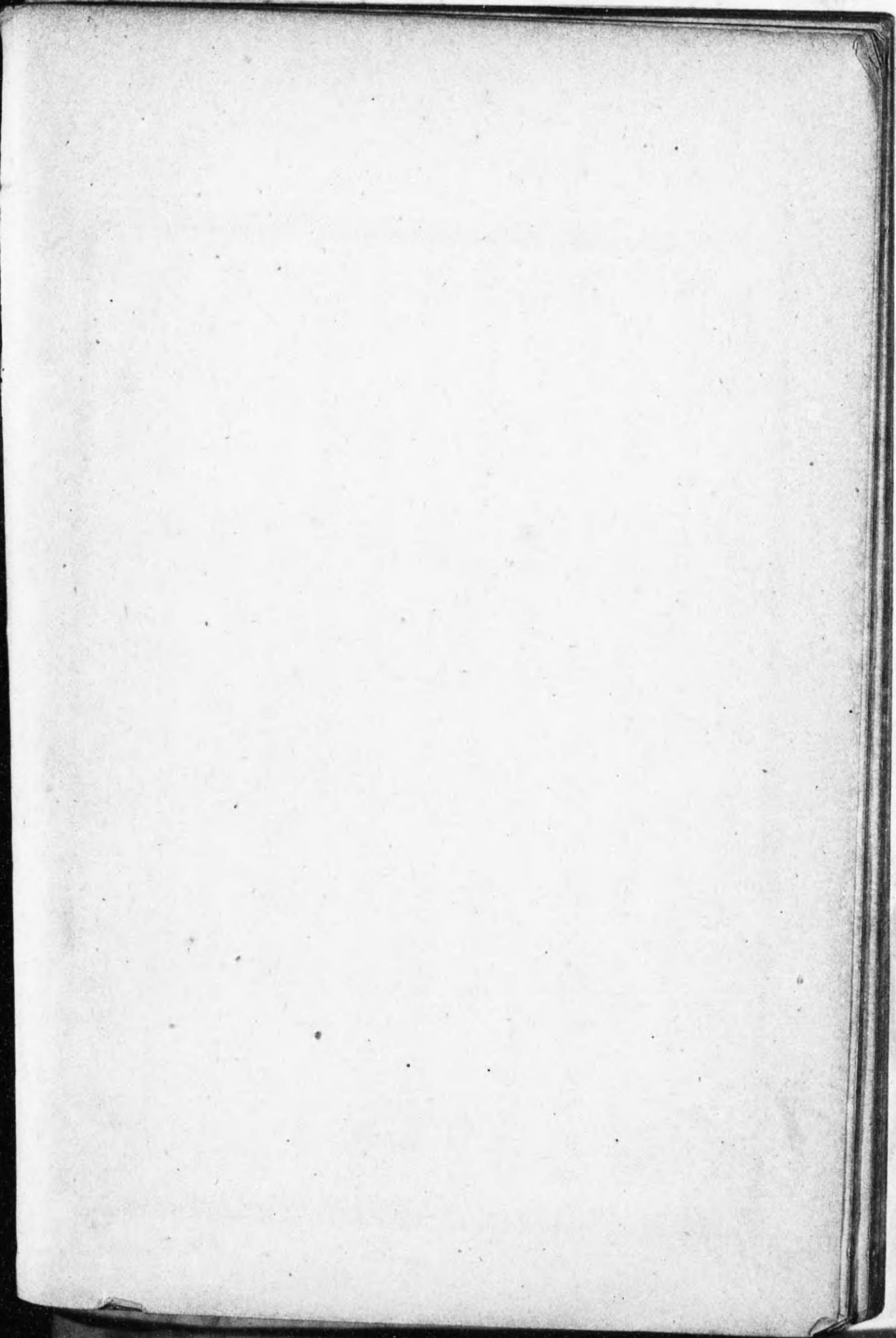
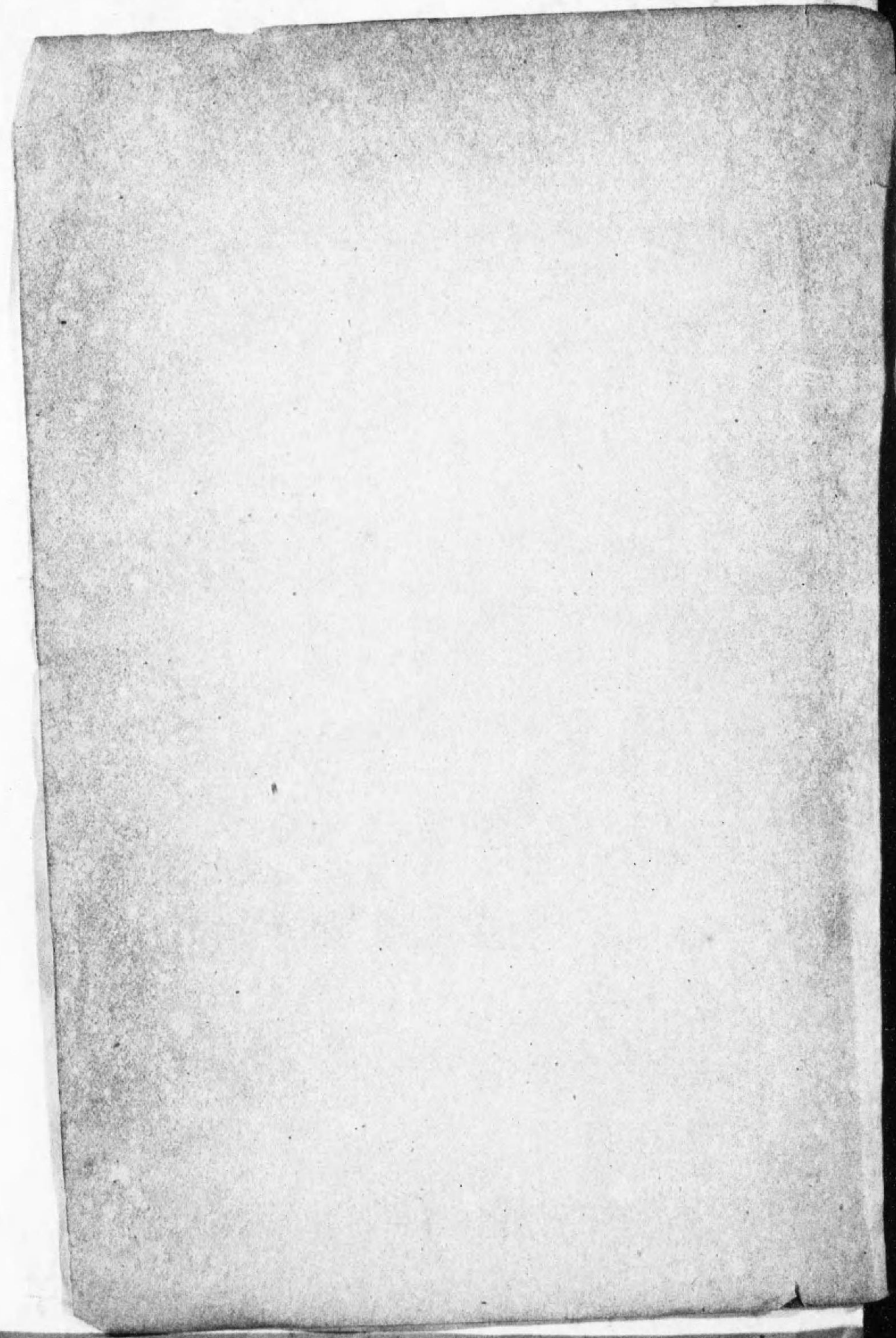
內閣書局藏書

頁八

頁九

明倫彙編 家範典 卷一百一十五
內閣書局藏書
頁八
頁九





終